

283  
V  
16

第六高等學校一覽

自明治四十三年  
至全四十四年



第六高等學校一覽目次

○學 歷	一	頁
○沿 途 略	三	頁
○高 等 學 校 之 關 係 法 令	十	四 頁
(一) 高 等 學 校 令	全	頁
(二) 高 等 學 校 大 學 豫 科 學 科 規 程	全	頁
(三) 附 文 部 省 訓 令	三	十 頁
(四) 文 部 省 直 轄 諸 學 校 設 置	全	頁
(五) 文 部 省 直 轄 諸 學 校 官 制 摘 載	三	十 四 頁
(六) 雇 外 國 人 使 用 方 件	三	十 五 頁
(七) 高 等 官 々 俸 給 令	全	頁
(八) 判 任 官 俸 給 令	四	十 一 頁
(九) 文 部 省 直 轄 諸 學 校 教 官 俸 給 支 給 之 關 係 件	四	十 二 頁

43.11.28 寄贈

目次

第六高等學校寄贈本



(十)	高等學校大學豫科入學者資格	四十三頁
(九)	高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程	四十四頁
(八)	高等學校大學豫科入學者選拔試驗檢定規程	四十八頁
(七)	文部省所管ノ學校二個以上ニ入學ヲ出願シタル者扱方ノ件	五十頁
(六)	文部省直轄學校生徒他ノ文部省直轄學校ノ入學試驗ヲ受ク ルノ件	五十一頁
(五)	文部省直轄學校外國人特別入學規程	全頁
(四)	大學豫科學力檢定規程	五十三頁
(三)	大學豫科學力檢定規程	五十四頁
(二)	行幸啓ノ節學生生徒敬禮方 則	全頁
○規	第六高等學校々々則	全頁
	第一章 校規	五十六頁
	第一款 總則	全頁
	第二款 學科課程	全頁

	第三款 學年學期及休業	六十六頁
	第四款 入學及在學	六十七頁
	第五款 生徒心得	六十八頁
	第六款 進級及卒業	六十九頁
	第七款 特待生	七十頁
	第八款 休學	七十一頁
	第九款 退學及除名	七十二頁
	第十款 懲戒	七十三頁
	第十一款 授業料	七十四頁
	第十二款 生徒寮規程	七十五頁
	書式	七十七頁
	第二章 細則	八十頁
	第一款 教務細則	八十頁



第一節	授業規程	全	頁
第二節	生徒心得	八十三	頁
第三節	學業成績考查細則	八十四	頁
第四節	生徒寮規程	八十七	頁
第五節	通學生徒規程	九十三	頁
第六節	担任教官級長及副級長規程	九十五	頁
第七節	監督教官規程	九十六	頁
第八節	評議員規程	九十七	頁
第九節	教授會規程	九十八	頁
第十節	服裝規程	九十九	頁
第十一節	生徒取締規程	百三	頁
第二款	掌務細則	百四	頁
第一款	校務分掌規程	全	頁

第二節	事務員服務規程	百十一	頁
第一	事務員	全	頁
第二	當直	百十五	頁
第三節	生徒寮掌務規程	百十八	頁
第一	寮務課長	百十八	頁
第二	寮務掛	全	頁
第四節	文庫規程	百二十一	頁
第五節	第六高等學校物品會計規程細則	百二十四	頁
附錄			
(一)	食費ニ關スル規程	百三十四	頁
(二)	本校生徒ニシテ入學試験ヲ受クルノ件	百三十五	頁
(三)	授業料及寄宿料徵收細則並ニ未納者取扱手續	全	頁
(四)	重要揭示	百三十八	頁



○職員姓名並ニ教務事務分配	百四十二頁
○生徒姓名	一頁
○卒業生姓名	二十一頁
○生徒府縣別人員	五十九頁
○敷地及建物	六十三頁

### 第六高等學校一覽

○學 曆 (自明治四十三年至同四十四年)

明治四十三年九月十日及十一日	生徒引見式
同月十二日	宣 誓 式
同月十三日	第一學期授業始ル
秋分日	休業(秋季皇靈祭)
十月七日	休業(神 嘗 祭)
十月三日	休業(天 長 節)
同月二十三日	休業(新 嘗 祭)
十二月二十四日	第一學期授業終ル
同月二十五日	冬期休業始ル
明治四十四年一月七日	冬期休業終ル
同月八日	第二學期授業始ル



同月三十日	休業(孝明天皇祭)
二月十一日	休業(紀元節)
春分日	休業(春季皇靈祭)
三月三十一日	第二學期授業終ル
四月一日	春季休業始ル
四月七日	春季休業終ル
四月八日	第三學期授業始ル
四月十九日	本校紀念日
七月十日	第三學期授業終ル
七月十一日	夏季休業始ル
九月十日	夏季休業終ル

○沿革 略

第六高等學校ハ明治三十三年三月二十九日勅令第八十四號ニ據リ設置セラレ同日勅令第八十六號ヲ以テ職員ノ員數ヲ定メラル

四月十三日第三高等學校教授正六位酒井佐保學校長ニ任セラレ

十九日文部省告示第百二十一號ヲ以テ本校ノ位置ヲ岡山縣岡山市大字門田字山手屋敷及大字國富字田中ト定メラレ假事務所ヲ文部省内ニ設ク

同日文部省令第七號ヲ以テ本校ニ大學豫科ヲ設置セラル

五月三十一日假リニ本校學則ヲ定メ大學豫科各部第一年級生徒ヲ募集ス

六月十九日文部省内假事務所ヲ岡山市大字國富少林寺ニ移



ス  
 七月六日入學試験臨時委員ヲ第三高等學校職員ニ囑託シ第  
 三高等學校ニ於テ入學試験ヲ施行ス受験者三百三十八人及  
 第セシ者百二十九人  
 八月十五日入學試験ノ合格者ヲ悉ク各部第一年級ニ編入シ  
 同時ニ生徒ノ制服制帽徽章ノ様式及ヒ生徒ノ番號ヲ定ム  
 此月教授書記及其他ノ職員ノ任命アリ校務分掌規程及事務  
 員服務細則等校務執行ニ關スル諸般ノ細則ヲ定ム  
 九月一日岡山市大字小橋町國清寺ヲ借リテ假生徒寮ニ充テ  
 此月六日ヲ期シ一般生徒ニ入寮ヲ命スコレ本校ノ新築事業  
 尙ホ央ニシテ生徒寄宿舎ノ建設ヲ見ルニ至ラス然ルニ土地  
 ノ狀況ハ生徒隨意ノ散宿ヲ許サ、ルモノアリ德育上衛生上  
 全校生徒ヲ一定ノ場所ニ收容スル必要ニ迫ラレシヲ以テナ

リ  
 六日假生徒寮ヲ開キ全校生徒ヲ悉ク之ニ收容ス  
 同日本校事務所ヲ本校内ニ移ス  
 此日教授飯塚啓曩ニ本校ニ下賜セラレタル 兩陛下並ニ  
 皇太子殿下ノ御眞影及教育ニ關スル敕語ノ謄本ヲ拜受シテ  
 着任ス  
 十一及十二ノ兩日入學生徒ノ引見式ヲ行フ  
 十三日入學生徒ノ宣誓式アリ  
 十五日開校式ヲ舉行ス文部大臣伯爵樺山資紀專門學務局長  
 上田萬年以下文部省高等官數名ヲ從ヘテ臨場ス此日市民ハ  
 各戸ニ國旗ヲ掲ケテ祝意ヲ表ス  
 十六日地方人民ニ校舎ノ縦覽ヲ許ス  
 十八日始メテ各學科ノ授業ニ就ク



十月二日從來ノ假學則ヲ改メ更ニ校則ヲ定ム其他擔任教官並ニ級長副級長等ノ制ヲ定ム  
 明治三十四年一月八日御親署ノ敕語ヲ拜戴ス  
 五月二日 皇孫御降誕奉祝ノ爲メ臨時休業ス  
 七日生徒募集ニ關シ特別法ヲ設ケ此年ニ限リ實施ス  
 九日生徒寮規則ヲ定ム  
 十日寄宿舎新築落成ヲ告ゲタルヲ以テ文部省總務局建築課ヨリ該建物ノ假引渡ヲ受ケ此日ヨリ新ニ生徒寮ヲ開キ國清寺ニ設ケタル假生徒寮ヲ廢ス  
 八月二十五日校則中授業料ニ關スル規程ヲ改正ス從來ノ規定ニ於テハ一學年ノ授業料額貳拾圓ナリシモ改正規則ニ於テハ貳拾五圓ト爲シ明治三十四年九月以後ノ入學生ニ對シ實施スルコト、ナセリ

此月學級ノ増設ニ應ジ増加スヘキ教授及講師等ノ任命アリ  
 九月三日博物學、化學、物理學ノ各特別教室ノ新築落成シタルニ依リ其引渡並ニ寄宿舎ノ本引渡ヲ文部省總務局建築課ヨリ受ク  
 明治三十五年一月書庫并ニ圖書閱覽室竣工シ茲ニ工事ニ關スル既定事業ヲ完成ス  
 三月二十七日敕令第九十八號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制改正同日敕令第九十九號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令制定セラレ本校職員ノ定員ヲ定メラル  
 四月二十五日文部省告示第八十二號高等學校大學豫科入學試驗規程發布ニヨリ從來各高等學校ニ於テ各自施設シタル生徒入學ニ關スル事項ハ茲ニ文部省事務ニ移ル  
 八月此學年ニ至リ三年級ノ新設ニヨリ授業組數ノ増加ニ伴



テ増員ヲ要スル教授講師等ノ任命アリ  
 九月十一日市内虎列拉病流行ニヨリ開校ヲ延期シ全月廿一日迄授業ヲ閉止ス此月生徒一部ニ市内散宿ヲ許シ同時ニ生徒番號ヲ廢ス本校ハ寄宿制度ヲ主義トナスト雖モ既設ノ寄宿舎ハ此學年ニ至リ増加シタル生徒總員ヲ收容シ能ハザルニヨリ止ムヲ得ズ一時例外ノ方法ヲ採ルニ至リタリ  
 明治卅六年三月七日生徒寮規程中ニ追加ヲナス從來ノ規程ニ於テハ寮費ハ在寮日數ノ多少ニ拘ハラヌ當月ノ全額ヲ徵收スルノ定メナリシモ追加規定ニ於テハ月ノ十五日ヲ以テ區分シ十五日以前ニ退寮シ又ハ十六日以後ニ入寮シタルモノハ半額ト定メタリ  
 六月三十日各部三年生六十八人卒業ス  
 七月三日第一回卒業証書授與式ヲ舉行ス

明治三十七年五月規則第一章第七款及第八款中改正ス蓋シ明文ノ不備ヲ修正シタルナリ  
 七月五日各部生徒百三人卒業ス  
 七日第二回卒業証書授與式ヲ舉行ス  
 十一月三十日文庫規程ヲ改正シ器械標本類ノ出納保管ノ任ヲ文庫課ノ管掌ヨリ除ク  
 明治三十八年二月授業料規定ヲ改正シ一學年ノ授業料額ヲ三十圓ト増額ス同時ニ在學証書ノ様式其他二三ノ点ヲ改正ス  
 七月三日各部生徒百十五人卒業ス(他ニ一名追試業ニヨリ卒業)五日第三回卒業証書授與式ヲ舉行ス  
 九月十一日一般生徒ノ風紀ヲ振肅スル爲生徒取締ヲ置キ其掌務規程ヲ定ム



明治三十九年七月二日各部生徒百三十人卒業(他ニ一名追試業ニヨリ卒業)

同月四日第四回卒業證書授與式ヲ舉行ス

明治四十年六月三十日各部生徒百三十三人卒業(他ニ四名追試業ニヨリ卒業)

七月一日第五回卒業證書授與式ヲ舉行ス

九月規則並ニ授業法ヲ改正ス其重ナル点ハ從來ノ生徒保証人ヲ廢シタルコト試験制度ヲ改メタルコト授業ハ重ニ教科書ヲ用ユルコト、爲シタル等是ナリ

明治四十一年三月十二日文部省告示第七十八號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試験規程廢止セラレ生徒募集事務ハ各高等學校ニ於テ執行スルコト、ナル

三十日生徒相所及雨天体操場落成ニ付文部大臣官房建築

課ヨリ引渡サル

此月勅令第六十九號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令中本校ノ定員數授二十六人ヲ二十七人ニ改メラル

六月二十七日各部生徒百五十二人卒業(外ニ清國學生ニ聽講證書ヲ授與シタル者一)

二十八日第六回卒業證書授與式ヲ舉行ス

九月規則中寮費一ヶ月金七拾五錢ヲ改メテ九拾錢トナス

明治四十二年一月校務分掌規程ヲ改正シ從來ノ分課ノ外更ニ生徒課ヲ増設ス

又評議員規定ヲ定メ同時ニ評議員ヲ任命ス

四月勅令第八十八號ヲ以テ教授ノ定員ヲ增加セラル

全年二十一日文部省令第十一號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試験規定ヲ定メラル



六月十四日文部省令第十五號ヲ以テ高等學校大學豫科學科課程中改正セラル

六月二十九日各部生徒百三十一人卒業ス内清國學生三人ヲ含ム(此外清國學生ノ聽講生トシテ學課修了ノモノ一人アリ)

七月一日第七回卒業證書授與式ヲ舉行ス

八月十九日文部省令第十九號ヲ以テ高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程中改正セラル

全日又文部省令第廿號ヲ以テ大學豫科學科課程中改正アリ

九月校則ヲ改正シテ寮費一ヶ月金九拾錢ヲ壹圓拾錢トナス

明治四十三年三月勅令第六十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校職員定員令改正セラレ本校助教授ノ定員七人ヲ二人ニ減セラル

五月文部省令第十一號ヲ以テ入學者選拔試驗無試驗檢定規

程定メラル

七月一日生徒百五十八人卒業(他ニ追試業ニヨリ卒業シタル者二人)又全日外國學生ニシテ學科修了ノモノハ清國學生三人韓國學生一人トス

七月二日第八回卒業證書授與式ヲ舉行ス



○高等學校ニ關スル法令

(一) 高等學校令抄(明治廿七年六月勅令第七十五號)

第二條 高等學校ハ専門學科ヲ教授スル所トス但帝國大學ニ入學スル者ノ爲メ豫科ヲ設クルコトヲ得

第三條 高等學校ハ其附屬トシテ低度ナル特別學科ヲ設クルコトヲ得

第四條 高等學校ニ於テ設クル所ノ學科及講座ノ數ハ文部大臣之ヲ定ム

(三) 高等學校大學豫科學科規程

(明治四十三年八月文部省令第十三號發布  
明治四十二年六月文部省令第十五號ニテ改正)

第一條 高等學校大學豫科學科ヲ分チテ第一部第二部及

第三部トス  
第一部ノ學科ハ法科大學及文科大學志望者ニ第二部ノ學

科ハ醫科大學ノ藥學科工科大學理科大學理工科大學及農科大學志望者ニ第三部ノ學科ハ醫科大學志望者ニ課スルモノトス

第二條 第一部ノ學科ハ倫理國語及漢文外國語歴史論理及心理法學通論體操トス

前項ノ學科ハ外交科大學志望者ニハ經濟通論ヲ課ス前二項ノ學科中文科大學哲學科志望者ニハ論理及心理ヲ

缺キ數學物理ヲ課ス外國語ハ英語獨語及佛語ノ中ニ就キ三種ヲ選ビシム

第一項ノ學科ハ法科大學志望者ニハ隨意科トシテ羅旬語ヲ課スルコトヲ得

第三條 第三部ノ學科ハ倫理國語外國語數學物理化學地質及礦物圖書體操トス



前項ノ學科ノ外醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科、礦物學科、並ニ農科大學志望者ニハ動物及植物ヲ課シ工科大學及理工科大學ノ土木工程學科、機械工學科、電氣工學科、採鑛及冶金學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、理科大學ノ星學科、並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニハ測量ヲ課ス

外國語ハ英語ノ外獨語又ハ佛語ヲ選ハシム但シ工科大學及理工科大學ノ電氣工學科、應用化學科、製造化學科、採鑛及冶金學科、並ニ農科大學志望者ニハ必ス獨語ヲ選フヘキモノトス

第一項ノ學科ノ外醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科、礦物學科、並ニ農科大學ノ獸醫學科志望

者ニハ隨意科トシテ羅旬語ヲ課スルコトヲ得

第四條 第三部ノ學科ハ倫理、國語、外國語、羅旬語、數學、物理化學、動物及植物、體操トス

外國語ハ獨語ノ外英語又ハ佛語ヲ選ハシム

第五條 各部各學科ノ每週授業時數ハ左ノ如シ

第一部

學科	第一	第二	第三
年	年	年	年
倫理			一
國語及漢文	六	五	四
英語	(九)	(九)	(八)



獨語	佛語	歷史	論理及心理	法學通論	經濟通論	體操	計
(九)	(九)	三				三	三〇
(九)	(九)	三	二			三	三一
(八)	(八)	三		二	(二)	三	二九 三一

備考 表中 ( ) ハ選擇科目ノ時數ヲ表シ [ ] ハ文科大學志望者ニノミ課スル時數ヲ表ス

文科大學哲學科志望者ニハ第三年ニ於テ國語ヲ缺ク且之ニ課スベキ數學物理ノ授業時數左ノ如シ

學年	學科	物理	數學
第一	年		
第二	年		二
第三	年		二

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ獨逸法又ハ佛蘭西法ヲ選擇スル法律學科並ニ文科大學ノ獨逸文學科佛蘭西文學科ヲ志望スル者ニ對シテハ外國語ノ授業時數ヲ左ノ如ク變更ス

學年	學科	英語	獨語又ハ佛語
第一	年	四	一四
第二	年	四	一四
第三	年	四	一二

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ政治學科ヲ志望スル者ノ外國語ノ授業時數ハ本人ノ志望ニ依リ前項ニ依ルコトヲ得



隨意科トシテ法科大學志望者ニ課スベキ羅旬語ノ授業時數左ノ如シ

羅旬語	學科	第一	第二	第三
	年	年	年	年
		二		

第二部

學科	學年	第一	第二	第三
		年	年	年
倫理		三	七	一
國語		八	七	四
英語		八	七	四
獨語又ハ佛語		五	四	六
數學				
物理				
計		三一	三一	三〇

學科	學年	第一	第二	第三
		年	年	年
化學			三	五
地質及鑛物		四	四	二
圖畫		三	三	二
體操		三	三	三
計		三一	三一	三〇

第三年ニ於テ醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科植物學科、地質學科、鑛物學科並ニ農科大學志望者ニハ數學ヲ缺キ工科大學及理工科大學ノ土木工學科、機械工學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、純正化學科及農科大學志望者ニハ圖畫ヲ缺ク



醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科、礦物學科並ニ農科大學志望者ニ課スヘキ動物及植物ノ授業時數左ノ如シ

動物及植物	學科	第一	第二	第三
	年	年	年	年
	講義			
	實驗	二	四	六

工科大學及理工科大學ノ土木工程學科、機械工學科、電氣工學科、採礦及冶金學科、工科大學ノ造船學科、建築學科、理科大學及理工科大學ノ數學科、物理學科、理科大學ノ星學科並ニ農科大學ノ農學科、農藝化學科、林學科志望者ニ課スヘキ測量ノ授業時數左ノ如シ

測量	學科	第一	第二	第三
	年	年	年	年
	講義			
	實驗	三		

隨意科トシテ醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科、植物學科、地質學科、礦物學科並ニ農科大學ノ獸醫學科志望者ニ課スヘキ羅甸語ノ授業時數左ノ如シ

羅甸語	學科	第一	第二	第三
	年	年	年	年
	講義			
	實驗	二		

第三部

國倫	學科	第一	第二	第三
		年	年	年
語	理	三		
				一



獨語	英語又ハ佛語	羅旬語	數	物	化	動物及植物	體操	計
一三	三		三			四	三	二九
一三	三		二	三	三	實驗	三	三〇
一〇	三	二		講義 三三	講義 三三		三	三二
				六	六			

獨語ヲ以テ入學シタルモノニ對シテハ外國語ノ授業時數ヲ左ノ如ク變更ス

學	科	年	第一	第二	第三
獨語	英語又ハ佛語		九	九	八
			七	七	五

第六條 前條ノ各學科ハ生徒卒業後分科大學各學科ノ授業ヲ受クルニ足ルベキ豫備ノ程度ヲ以テ標準トナスベシ

第七條 學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ分科大學某科志望者ニ課スベキ一學科若シクハ數學科ヲ其學校ニ置カザルコトヲ得

附 則

第八條 本令ハ明治三十三年九月一日ヨリ施行ス

第九條 本令施行ノ際現ニ第二年又ハ第三年ノ課程ヲ修ムル者ニ就キテハ其卒業ニ至ルマテ文部大臣ノ許可ヲ受ケ



舊規程ニ依リ若クハ新舊ノ規程ヲ斟酌シテ之ヲ教授スル  
コトヲ得

文部省訓令第九號(明治三十三年八月四日  
各高等學校へ訓令)

高等學校大學豫科ニ關スル現行ノ規程ハ概テ數年前ノ制定  
ニ係リ改正ヲ要スヘキモノ尠ナカラス茲ニ文部省令第十三  
號ヲ發布シ其學科規程ヲ改正シタルハ既往ノ實驗ニ徴シ特  
ニ緊急改正ノ必要ヲ認メタレバナリ依リテ左ニ其ノ要領ヲ  
表示シ併テ本大臣ノ意見ヲ開陳ス各學校長及教官ハ宜シク  
其意ヲ體シ該令ノ旨趣ニ副ハムコトヲ務ムベシ高等學校大  
學豫科ハ帝國大學ノ豫備教育ヲ施ス處ナルヲ以テ大學ニ於  
ケル各専門學科ノ授業ヲ受クルニ必要ナル智識ヲ授クルヲ  
以テ目的トス豫備學科ノ區劃多岐ニ涉リ其修得スル所却リ  
テ散漫ニ流ル、ガ如キハ務メテ之ヲ避ケサルヘカラス故ニ

新規程ニ於テハ豫備學科ノ區劃ハ成ルヘク之ヲ大體ニ止メ  
各學科ノ配當及授業時數等ニ適當ノ改正ヲ施シ以テ確實ナ  
ル豫備教育ノ本領ヲ完カラシムコトヲ期ス  
徳性ノ涵養ハ教育ノ第一義ニシテ高等學校ニ於テモ常ニ意  
ヲ此ニ致シ其完成ヲ企圖スヘキハ固ヨリ辯ヲ俟タスト雖モ  
舊規程ニ於テハ倫理科ノ授業時數ニ一定ノ規定ナキヲ以テ  
各學校ニ於ケル施行ノ方法齊一ナラス概テ毎週一時ヲ割テ  
該科ノ教授ニ充テタルカ如シ抑モ高等學校ノ生徒ハ既ニ小  
學ヨリ中學ニ至ルマテ多年ニ涉リテ實踐道德ノ教育ヲ受ケ  
來リタルモノナルヲ以テ高等學校ニ於ケル倫理科ハ故ラニ  
修身ニ關スル授業ヲ施サス學校長常ニ德育ノ中心トナリ機  
ニ臨ミ生徒ヲ訓戒シ各教官ニ於テモ適切ノ方法ニ依リ常ニ  
其ノ品性ヲ誘掖陶冶スルコトヲ務メ第三年ニ至リ近世學理



ノ上ヨリ人倫ノ大道ニ關スル稍高尚ノ智識ヲ與ヘ平素學習セル科學上ノ智識トノ調和ヲ圖リ以テ倫理教育ノ上圓滿ナル成果ヲ收メムコトヲ望ム

外國語ニ習熟セシムルハ各専門學科教授ノ豫備トシテ最も必要ナルニ拘ハラズ之ヲ從來ノ經驗ニ徵スルニ高等學校ヲ卒業シ進ミテ大學ニ入ル者ノ缺點ハ外國語ノ力ノ不充分ナルニ在リ是レ改正規程ニ於テ各部ヲ通シテ著シク其授業時數ヲ増加シタル所以ナリ而シテ此増加シタル時間ニ於テハ適宜ニ學科ニ關スル外國ノ參考書等ニ習熟セシムベシ然レトモ語學ノ教授ハ單ニ授業時數ノ増加ノミニ依リテ必スシモ其ノ進歩改善ヲ望ミ得ヘキニアラス教授法ノ改善又隨テ之ニ伴ハサルヘカラス故ニ當該教官ハ宜シク常ニ適切ナル教授法ヲ攻究シ改正ノ旨趣ヲ空シカラシメザラムコトヲ要ス

ス

第二部及第三部ニ於テ特ニ著シク國語及漢文ノ授業時數ヲ減シタルハ該部専門學科ノ豫備トシテハ深ク文學上ノ智識ヲ授クルノ必要ナク能ク國語漢文ヲ調和シテ簡明達意ノ文ヲ綴リ得ルニ至ラシムルヲ以テ足レリトスレハナリ故ニ該部ニ於テハ其名稱ヲ改メテ單ニ國語トナシ一層此目的ニ適ハシメムトス而シテ國語ト漢文トハ教育上最密接ノ關係ヲ有スル學科ナルヲ以テ第一部ニ於テ之ヲ教授スルニ方リテモ兩者ヲシテ成ルヘク相待チ相扶ケ以テ適當ナル融合調和ヲ圖ラムコトヲ要ス

其他改正ノ細目ニ就テハ敢テ茲ニ詳説セスト雖モ之ヲ要スルニ本改正ノ旨趣ニ基キ大學豫備教育ノ實質的改善ヲ完ツスルハ各學校長及教官ノ周到ナル用意ニ侍ツモノ多シトス



(三) 第六高等學校設置 (明治三十三年四月)  
第六高等學校ニ大學豫科ヲ設置シ明治三十三年九月十一日

ヨリ授業ヲ開始ス

(四) 文部省直轄諸學校官制 (抄) (明治二十六年八月勅令第八十六號ヲ以テ  
月勅令第六十六號迄數次ノ改正ヲ經)

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

- 東京高等師範學校
- 廣島高等師範學校
- 東京女子高等師範學校
- 奈良女子高等師範學校
- 盛岡高等農林學校
- 鹿兒島高等農林學校
- 上田蠶絲專門學校
- 東京高等商業學校

- 神戸高等商業學校
- 長崎高等商業學校
- 山口高等商業學校
- 小樽高等商業學校
- 第一高等學校
- 第二高等學校
- 第三高等學校
- 第四高等學校
- 第五高等學校
- 第六高等學校
- 第七高等學校造士館
- 第八高等學校
- 千葉醫學專門學校



仙臺醫學專門學校  
 岡山醫學專門學校  
 金澤醫學專門學校  
 長崎醫學專門學校  
 新潟醫學專門學校  
 東京高等工業學校  
 大阪高等工業學校  
 京都高等工藝學校  
 名古屋高等工業學校  
 熊本高等工業學校  
 仙臺高等工業學校  
 米澤高等工業學校  
 秋田鑛山專門學校

東京外國語學校  
 東京美術學校  
 東京音樂學校  
 東京盲學校  
 東京聾啞學校  
 第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク  
 校長 教授 生徒監 助教授 書記  
 第七條 校長ハ敎任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス  
 第八條 教授ハ敎任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル  
 第九條 生徒監ハ奏任敎官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル



第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス  
 第十七條 專任教官中其學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者  
 ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於  
 テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時講師ヲ囑託シ其學科ノ  
 授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十八條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校高等  
 學校及ヒ東京工業學校教官ノ中ヨリ各附屬學校主事東京  
 教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其事  
 務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員  
 會ヲ設クルコトアルヘシ其委員ハ文部大臣之ヲ命ス

(五) 文部省直轄諸學校職員定員令(抄)  
(明治三十五年勅令第九十九號ヲ以テ制定セラレ補後  
 明治四十三年三月勅令第六十七號迄數次ノ改正ヲ經)

第六高等學校	校長	一	教授	二八	生徒監	補職	助教授	二	書記	六
--------	----	---	----	----	-----	----	-----	---	----	---

(六) 雇外國人使用方(明治二十六年九月  
 勅令第九十六號)  
 帝國大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルト  
 キハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ  
 雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

(七) 高等官々等俸給令(抄)(明治四十三年三月  
 勅令百三十四號)  
 第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除クノ外高等官ヲ分テ  
 九等トス親任式ヲ以テ叙任スル官及一等官二等官ヲ勅任  
 官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス  
 第四條 初メテ高等文官ニ任セララル、者ノ官等ハ六等以下  
 トス



高等文官ニシテ退官シタル者再ヒ高等文官ニ任セラル、  
場合ニ於テハ其官等ハ前官ノ官等以下トス但シ前官々等  
在職年數二年ヲ超エタル者ハ前官ノ官等ニ一等ヲ進ムル  
コトヲ得

前官ノ官等七等以下ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス陞シ  
テ六等官ニ至ルコトヲ得

第五條 高等文官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及  
七等以下ノモノヲ除キ在職二年ヲ超ユルニ非レハ陞叙ス  
ルコトヲ得ス

第十條 (三項)

文部省直轄諸學校教授ニシテ五年以上高等官三等ニ在リ  
功績アル者ハ二十七人ヲ限リ高等官二等ニ陞叙スルコト  
ヲ得但シ各校二人ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 別表第二表(中畧)第五號ニ依ルモノハ高等官三等  
以下トス

第二十二條 別表第二表第五號ニ依ル諸官左ノ如シ

(中畧)

文部省直轄諸學校教授

(下畧)

第二十三條(一項) 別表第二表(中畧)第五號ニ依ル職員ハ一級  
俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ五百圓以  
内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

(三項)

第五號ニ依ル諸官(中畧)ハ各廳事務ノ繁閑ニ依リ俸給最低  
額以下ヲ給スルコトヲ得

第二十五條 前數條ニ依ルモノヲ除クノ外高等文官ノ年俸



ハ別表第五表ニ依ル但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 陸海軍武官ノ俸給ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

現役武官ニシテ高等文官タル者其武官トシテ受クヘキ俸給額カ文官トシテ受クヘキ俸給額ヨリ多キトキハ武官ノ俸給額ヲ其所屬應ニ於テ給スルコトヲ得

第三十一條 高等文官死亡シタルトキハ在職最終年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス

前項遺族ト稱スルハ官吏遺族扶助法ノ定ムル所ニ依ル終身官ハ其ノ在職中死亡シタル者ニ限リ前二項ノ規定ヲ適用ス

第三十三條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ

計算ス

休職又ハ待命ヲ命セラレ年俸全額ヲ給セサル場合ハ減俸ト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第三十四條 廢官、退官、退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第三十五條 休職、廢官、退官ノ者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ受ケ事務ニ従事スル場合ニ於テハ其間仍従前ノ年俸ヲ給ス

第三十六條 病氣ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニヨリ執務セサルコト三十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ此ノ限ニ在ラス







第十四條 月俸ハ毎月下旬之ヲ支給ス  
前項ノ外俸給ノ支給ニ關シテハ高等官々等俸給令ノ例ニ依ル

(別表)

級	俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸	十級俸	十一級俸	十二級俸
月額		五五〇	五〇〇	四五〇	四〇〇	三五〇	三〇〇	二五〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	五〇	〇

(九) 文部省直轄諸學校教官俸給ノ支給ニ關スル件

(明治四十三年三月勅令第四百五十四號)

第一條 文部省直轄諸學校教官ノ俸給ハ其ノ授業ノ時間又ハ學科ノ難易輕重ニ依リ最低額以下ヲ給スルコトヲ得  
第二條 文部省直轄諸學校教官ニシテ一校又ハ數校ノ教官ヲ兼任スル者ニハ本官及兼官ニ於ケル授業ノ時間又ハ學

科ノ難易輕重ニ依リ其俸給額ヲ分割シテ各學校ヨリ給スルコトヲ得

第三條 文部省直轄諸學校ノ囑託講師ニハ教官俸給額ノ中ヨリ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

(十) 高等學校大學豫科入學者資格 (明治四十一年三月文部省令第九號)

高等學校大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且ツ體格検査ヲ受ケ之ニ合格シタル者タルベシ  
一 中學校ヲ卒業シタル者  
二 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者  
三 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者但シ某學校ノ入學ニ限リ指定ヲ受ケタル者ヲ除ク

明治二十七年文部省令第十六號ハ之ヲ廢止ス



(土) 高等學校大學豫科入學者選拔試驗規程(明治四十二年四月二十一日文部省令第十一號發布全年八月十九日文部省令第十九號ニテ改正)

第一條 選拔試驗ハ入學志望者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキ之ヲ行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムベキ生徒ノ概數及選拔試驗施行ノ期日ハ文部大臣之レヲ告示ス

第三條 選拔試驗ノ學科目ハ中學校ノ學科目(法制經濟及唱歌ヲ除ク)中ニ就キ毎回文部大臣之ヲ告示ス

第四條 選拔試驗ハ中學校卒業ノ程度ニ據ル

第五條 選拔試験ヲ受ケントスルモノハ其入學後修業セントスル部類ヲ指定スベシ

指定スヘキ部類ハ左ノ如シ

英語法律科

第一部甲類

政治科

經濟科

商科

第一部乙類

英語文科

獨語法律科

第一部丙類

政治科

獨語文科

佛語法律科

第一部丁類

政治科

佛語文科

第二部甲類

工科



理科  
農科  
醫科ノ内藥學科

第三部 醫科

入學志望者ハ志望類二箇以上(同一部内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此場合ニ於テハ其志望類ノ順位ヲ定ムベシ

第六條 選抜試験ヲ受ケタル者ハ之ヲ第一部、第二部、及第三部ノ三部ニ分チ其試験ノ成績順ニ依リ各高等學校ニ於テ各部募集ノ総員ト同數ノ人員ヲ選出シ其ノ内ニ就キ左ノ方法ニ依リ入學セシムベシ  
一 選抜試験成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス

二 第一號ノ場合ニ於テ成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル

三 第二號第二號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類已ニ滿員トナリ配當スルコトヲ得サル者ニ就テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニシテ缺員アルモノニ配當ス

四 第三號ノ場合ニ於テ成績相同シキトキハ志望類ノ順位ニ依ル

五 第三號ノ場合ニ於テ成績及志望類ノ順序相同シキトキハ抽籤ニ依ル

六 前數號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル志望類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得ザルモノトス  
前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲メ入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ前項選出人員以外ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ



依リ之ヲ補填スベシ

(三) 高等學校大學豫科入學者選抜試験無試験檢定規程

(明治四十三年五月  
文部省令第十一號)

第一條 各高等學校ハ大學豫科各部ノ入學志望者募集人員  
ニ超過シタルトキハ各部各類ニ於ケル募集人員ノ五分ノ  
一以內ニ限リ無試験檢定ニ依リ入學志望者ノ入學ヲ許可  
スルコトヲ得

第二條 無試験檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ有シ其  
ノ卒業シタル中學校長ノ推薦シタル者ニ限ル

一 品行方正ニシテ体格強健ナルコト

二 無試験檢定ヲ受ケントスル年ニ於テ中學校ヲ卒業シタ  
ルコト

三 第三學年以上繼續シテ同一中學校ニ在學シタルコト

四 第三學年以上ノ學業成績左ノ標準ニ該當スルコト

(イ) 第三學年並第四學年ノ學年試験ニ於ケル學業成績  
其ノ合格者總數ノ四分ノ一以內ニ相當スル順位ニ  
アリタルコト

ロ) 卒業試験ニ於ケル學業成績其ノ卒業者總數ノ十分  
ノ一以內ニ相當スル順位ニアリタルコト

第三條 前條ノ資格ヲ有スル入學志望者ヨリ請求アリタル  
トキハ當該中學校長ハ左ノ様式ニ依リ推薦書ヲ調製シ入  
學出願期限内ニ直接ニ當該高等學校長ニ提出スヘシ

(推薦書式略ス)

第四條 無試験檢定ハ各高等學校所ノ定入學出願手續ヲ完  
了シタル者ニ限リ之ヲ行フ



第五條 無試験檢定ニ依リ入學ヲ許可セスト決定シタル者ハ選抜試験ヲ受タルモノトス

第六條 第三條ノ推薦書ハ選抜試験ヲ同時ニ施行スル二個以上ノ高等學校ニ提出スルコトヲ得ス

前項ニ違反シタル場合ニ於テハ其無試験檢定ハ之ヲ無効トス

附 則

第七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(公布ノ日、四十三年五月十四日ナリ)

(三) 文部省所管ノ學校二個以上ニ入學ヲ出願シタル者扱方ノ件

(明治四十三年九月六日) 文部省告示第二百十三號

同一人ニシテ東京帝國大學農科大學農學實科同林學實科同獸醫學實科東北帝國大學農科大學豫科同附設農學實科同附設土木工學科同附設林學科同附設水産學科並文部省直轄諸

學校中ノ二個以上ノ學科若クハ學校ニ入學ヲ出願シタル者ハ其最前ニ入學許可セラレタル學科若クハ學校ニ入學スヘキモノトス但シ同時ニ二個以上ノ學科若クハ學校ニ入學ヲ許可セラレタル者ノ入學スヘキ學科若クハ學校ハ本人ノ選擇ニ任ス

(四) 文部省直轄學校生徒他ノ文部省直轄學校ノ入學試験ヲ受タルノ件

(明治三十八年文部省令第十八號)

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ豫メ學校長ノ許可ヲ受ケズ他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試験ヲ受ケタルトキハ其入學試験ハ無効トス

(五) 文部省直轄學校外國人特別入學規程 (明治三十四年十一月) 第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若クハ數科ノ教授ヲ受ケン



トスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルベシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若クハ學校長ニ願出ツベシ

第三條 帝國大學總長若クハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ハ之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ証明書ヲ受ケントスル者ニハ試驗ノ上之ヲ附與スベシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試驗料及授業料ヲ徴收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

(其) 大學豫科學力檢定規程(明治二十六年六月十四日文部省訓令)

第一 大學豫科學力檢定試驗ハ帝國大學分科大學ヨリ其入學志願者ノ學力檢定試驗執行ノ通告アル場合ニ限り高等學校ニ於テ施行スルモノトス

第二 大學豫科學力檢定試験ハ高等學校大學豫科卒業ノ程度ニ依ル但官立府縣立中學校又ハ之ト同等ト認ムヘキ公立中學校ノ卒業證書ヲ有セサル者ニハ先ツ中學校ノ學力檢定試験ヲ行フモノトス

第三 大學豫科學力檢定試験ハ毎年七月又ハ九月ニ於テ一回之ヲ施行ス

第四 大學豫科學力檢定試験ヲ受ケントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ但シ既納ノ受験料ハ受験者ノ都合ニ依リ試験ヲ受ケサルコトアルモ返付セス



第五 試験合格者ニハ左式ノ証明書ヲ交付スヘシ

(証明書式略ス)

(七) 行幸啓ノ節學生生徒敬禮方(明治四十三年八月  
文部省訓令第十八號)

一 武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ劍ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ中隊ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車カ中隊ノ左翼約十歩ヲ過ギタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム  
御車ガ中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

一 武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽セシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車カ組ノ右翼約十歩ニ近キタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシメ(体ノ上部ヲ約三寸度前方ニ屈セシム)徐ニ元ノ姿勢ニ復セシム  
御車ガ組ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長、職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス



○規 則

第六高等學校々則

第一章 校 規

第一款 總 則

第一條 本校ハ明治二十七年勅令第七十五號第二條ニ基キ  
明治三十三年文部省令第七號ニ依リ大學豫科ヲ置ク

第二條 本校ノ學科ハ明治三十三年文部省令第十三號所定  
ノ大學豫科第一部第二部及第三部トス

第二款 學科課程

第一條 本校大學豫科ノ學科ヲ分テ第一部第二部及第三  
部トス

第一部ハ法科大學及文科大學志望者ニ課スルモノニシテ  
其學科ハ左ノ如シ

倫理國語及漢文外國語歷史論理及心理法學通論體操

文科大學志望者ニハ前項ノ學科外ニ經濟通論ヲ課ス

文科大學哲學科志望者ニハ前二項ノ學科中論理及心理

ヲ缺キ數學物理ヲ課ス

外國語ハ英語及獨語ヲ課ス

法科大學志望者ニハ第一項ノ學科外ニ隨意科トシテ羅

旬語ヲ課ス

第二部ハ醫科大學ノ藥學科理科大學工科大學理工科大學  
及農科大學志望者ニ課スルモノニシテ其學科ハ左ノ如シ

倫理國語外國語數學物理化學地質及礦物圖書體操トス

醫科大學ノ藥學科理科大學ノ動物學科植物學科地質學

科礦物學科並ニ農科大學志望者ニハ前項學科ノ外ニ動

物及植物ヲ課シ工科大學及理工科大學ノ土木工學科機



械工學科電氣工學科採鑛及冶金學科工科大学ノ造船學  
 科建築學科理科大學及理工科大学ノ數學科物理學科理  
 科大学ノ星學科並ニ農科大学ノ農學科農藝化學科林學  
 科志望者ニハ測量ヲ課ス  
 外國語ハ英語及獨語ヲ課ス  
 醫科大学ノ藥學科理科大學ノ動物學科植物學科地質學  
 科鑛物學科並ニ農科大学ノ獸醫學科志望者ニハ第一項  
 ノ學科ノ外ニ隨意科トシテ羅旬語ヲ課ス  
 第三部ハ醫科大学志望者ニ課スルモノニシテ其學科左ノ  
 如シ  
 倫理國語外國語羅旬語數學物理化學動物及植物體操ト  
 ス  
 外國語ハ獨語ノ外英語ヲ課ス

第二條 各學科每週授業時數左ノ如シ

(一) 大學豫科第一部英法科

表中(印)アルハ  
隨意學科トス

學科	學年	第一學年 每週時數	第二學年 每週時數	第三學年 每週時數
倫理	學年			
國語及漢文	學年	六	五	四
英語	學年	九	九	八
獨語	學年	九	九	八
羅旬語	學年			(二)
歷史	學年	三	三	三
論理及心理	學年		二	
法學通論	學年			二
體操	學年	三	三	三



(三) 大學豫科第一部獨法科										
學科	學年	倫理	國語及漢文	英語	獨語	羅句語	歷史	論理及心理	法學通論	體操
第一級每週時數			六	四			三			三
第二級每週時數			五	四			三	二		三
第三級每週時數		一	四	四			三		二	三
計			三〇	三一			三一			三一

英語ヲ以テ入學シ法科大學ノ政治學科ニ志望スル者ノ外國語ノ授業時數ハ本人ノ志望ニヨリ前表ニ依ルコトヲ得

(三) 大學豫科第一部文科

學科	學年	倫理	國語及漢文	英語	獨語	歷史	數學	物理
第一級每週時數			六	四	四	三		
第二級每週時數			五	四	四	三	二	〇
第三級每週時數		一	四	四	三	三	二	〇
計			三一	三一		三一		三一



學科		年		學科		年		學科		年	
數	獨	英	國	倫	理	計	體	經	法	論	理
學	語	語	語	理	學	操	操	論	學	及	心
										理	理
(四) 大學豫科第二部工科											
五	八	八	三			三〇	三				
第一學年級每週時數											
四	七	七				三一	三			哲學〇	其他二
第二學年級每週時數											
六	四	四		一		二九	三				
第三學年級每週時數						三一					

學科		年		學科		年		學科		年	
國	倫	學	科	學	科	學	科	學	科	學	科
語	理	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
(五) 大學豫科第二部理農藥學科											
三						三一	三	四			
第一學年級每週時數											
						三一	三	四		三	三
第二學年級每週時數											
						三三	三	二		二	二
第三學年級每週時數						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					
						三〇					
						三一					
						三三					



英 語	獨 語	羅 甸 語	數 學	物 理	化 學	動 物 及 植 物	地 質 及 鑛 物	測 量	圖 書	體 操	計
八	八		五							三	三一
七	七		四		三					三	三一
四	四	藥(二)其他○ 動植、地質、鑛物、獸醫、 農科各科○其他六	三	三	講義三 實驗三 數學、物理、星學、 其他二	二	農藝、物理、星學、農學、 其他○ 農藝、林學、各三 其他○ 理科各科、理工科、數學、 物理、純正化學、農科各科 各○其他二	二		三	二 三 九 〇

(六) 大學豫科第三部醫科

倫 理	國 語	獨 語	英 語	羅 甸 語	數 學	物 理	化 學	動 物 及 植 物	體 操	學 科 年 級
	三	一三	三		三			四	三	第一年級每週時數
		一三	三		二			實驗三	三	第二年級每週時數
一		一〇	三				講義三 實驗三	講義三 實驗三	三	第三年級每週時數



計

二九

三〇

三一

第三款 學年學期及休業

第一條 學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年九月十日ニ終ル

第二條 學年ヲ分チテ三學期トス

第一學期 九月十一日ヨリ翌年一月七日マテ

第二學期 一月八日ヨリ四月七日マテ

第三學期 四月八日ヨリ九月十日マテ

第三條 休業日左ノ如シ

日 曜 日

本校紀念日 四月十九日

秋季皇靈祭 秋 分 日

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月二十三日

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十一日

春季皇靈祭 春 分 日

冬季休業 十二月廿五日ヨリ翌年一月七日マテ

春季休業 四月一日ヨリ四月七日マテ

夏季休業 七月十一日ヨリ九月十日マテ

第四款 入學及在學

第一條 入學ノ期ハ每學年ノ初メトス

第二條 本校ニ入學スルコトヲ得ルモノハ明治四十一年三月十九日

第三條 本校ヲ退學セシ者及除名セラレタル者再入學ヲ願

フトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルベシ



第四條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ宣誓ヲナシ生徒名簿ニ記名シ且ツ九月十日迄ニ父兄若クハ父兄ニ代ハリテ其責ニ任スヘキ者ノ連署セル在學証書(第一號書式)ヲ差出スヘシ

第五條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ指定ノ期日迄ニ入學料金壹圓ヲ納ムヘシ

第五款 生徒心得

第一條 本校生徒タルモノハ教育ニ關スル 勅語ノ趣旨ヲ奉體シ眷々服膺シテ須臾モ之ヲ忘ルヘカラス

第二條 本校生徒ハ左ノ五項ヲ服膺スベシ

第一項 忠孝ノ大義ヲ明ニシ愛國ノ精神ヲ發揮スベキ事

第二項 信義ヲ重シ廉恥ヲ尙ビ輕佻浮薄ノ舉動アルヘカラザル事

第三項 志操ヲ固クシ學業ヲ勵ミ身体ヲ健全ニス可キ事

第四項 質素勤儉ヲ旨トシ言行一致ヲ期シ忍耐ノ氣風ヲ

養フベキ事

第五項 規律ヲ守リ禮讓ヲ重シ暴慢放肆ノ行爲アル可ラザル事

第六款 進級及卒業

第一條 各學年ノ末ニ於テ各生徒ノ行狀、勤惰、學業成績等ヲ考查シ合格ノ者ハ進級若クハ卒業セシメ不合格ノ者ハ原級ニ止ム

第二條 學業成績ハ日常ノ課業、通常試業並ニ必要上施行セ

ル場合ニハ學期試業ノ成績ヲ參酌シテ之ヲ定ム  
第一項 通常試業ハ課業進度ニ應シ教官ノ見込ニヨリ之ヲ施行ス



- 第二項 學期試業ハ特ニ必要ト認ムル學科ニ限リ各學期ノ末ニ於テ學年ノ始ヨリ當該學期ノ終ニ至ル間ニ履修シタル課業ニ就テ施行ス
- 第三條 學業成績ノ考查ハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム
- 第四條 前條ニヨリ原級ニ止メタル者ニハ次學年ノ始ヨリ當該學級ノ全學科ヲ再修セシム
- 第五條 卒業成績ハ三學年間ノ學業成績及ヒ行狀勤怠等ヲ考查シテ之ヲ定ム
- 第六條 所定ノ課程ヲ履修シ卒業セルモノニハ第二號書式ノ卒業證書ヲ授與ス
- 第七款 特待生
- 第一條 品行方正學術優等ナル生徒ヲ選ヒテ本校ノ特待生ト爲ス

- 第二條 特待生ハ每學年ノ終ニ於テ其學科ノ成績ニ依リ學校長之ヲ選定ス
- 第三條 特待生ニシテ其資格ニ不適當ノ廉アリト認ムルトキハ直チニ其待遇ヲ解除ス

第八款 休學

- 第一條 疾病又ハ已ムヲ得ザル事故ニヨリ三ヶ月以上修學スルコト能ハサル見込ノ者ハ願ニヨリ其學年間休學ヲ許可スルコトアルベシ
- 第二條 休學セント欲スル者ハ疾病ナレハ本校指定ノ醫師又ハ公私病院ノ診斷書ヲ添へ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スベキ者ノ連署ヲ以テ願出ツベシ
- 第三條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ其原級ニ入り修學セシム



一年志願兵服役ノ爲メ休學ノ許可ヲ得タルモノハ滿期後直チニ原級ニ復スルモノトス

第四條 休學ノ事由止ミタルトキハ許可ヲ得テ課業ニ就クコトヲ得

第五條 休學ハ同一學級ニアル間ハ一回ニ限ル但シ一年志願兵服役ノ爲メ休學スル者ハ此限ニアラズ

第九款 退學及除名

第一條 生徒疾病其他事故ニ依リ退學セント欲スルトキハ其事由ヲ詳記シ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者ノ連署ヲ以テ願出ツヘシ

第二條 生徒ハ學校長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ他學校ノ入學試験ヲ受クルヲ得ス

第三條 左ノ各項ノ一ニ當ルモノハ除名ス

一 正當ノ事由ナクシテ引續キ三ヶ月以上缺席セル者又ハ同期間出席僅ニ數回ニ止マル者

二 屢遅刻缺席シ出席常ナラザル者

三 二回引續キ同級ニ止マル者  
但一年志願兵服役ノ爲メ同級ニ止マル回数ヲ除ク

四 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナキ者

五 授業料寮費ノ怠納三十日ニ及フ者

第四條 除名ニ關シテハ前條ニ指定シタル場合ノ外臨機ノ處分ヲ爲スコトアルベシ

第十款 懲戒

第一條 品行不良或ハ校規風儀ヲ紊亂シ其他生徒ノ本分ニ背戾セル者ハ單ニ形跡ニ拘ハラズ主トシテ德義ニ基キ之ヲ懲戒ニ處ス



第二條 懲戒ハ之ヲ分テ戒飭、停學、禁足、放校ノ四トス

第三條 戒飭ハ訓戒ヲ加ヘ停學ハ教室ニ於テ就學スルコトヲ停止シ禁足ハ生徒寮ヨリ外出スルヲ停止シ放校ハ本校ヨリ放逐スルモノトス

第十一款 授業料

第一條 授業料ハ一學年金參拾圓トシ左ノ三期ニ分納セシム

第一學期分九月十一日ヨリ二十四日迄ニ納付金拾貳圓

第二學期分一月八日ヨリ二十一日迄ニ納付金九圓

第三學期分四月八日ヨリ二十一日迄ニ納付金九圓

第二條 授業料ハ缺課停學等ノ爲メ免除セズ

但一年志願兵服役ノ爲メ休學スル者ニハ次期以降ノ分納額ヲ免除シ其他ノ休學者ニハ其半額ヲ免除ス

第三條 特待生ニ對シテハ授業料ヲ徴收セズ

第四條 休學、退學、除名、放校等ノ場合ニ於テモ既納ノ授業料ハ還附セズ

第五條 休學者休學ノ事故止ミテ課業ニ就キタルトキハ當期分ノ授業料全額ヲ徴收ス

第六條 定期日内ニ授業料ヲ納メサル者ハ未納中登校ヲ差止メ其怠納三十日ニ及ブモノハ第九款第三條第五項ニヨリ處分ス

第十二款 生徒寮規程

第一條 生徒寮ハ本校生徒ノ常ニ起臥シテ身体ヲ鍛鍊シ學術ヲ自修シ品性ヲ陶冶スル處トス

第二條 在寮生徒ハ本校生徒心得ノ趣旨ヲ以テ修身ノ綱領トナスベシ



第三條 本校生徒ハ総テ生徒寮ニ入ルベキモノトス但本校ノ都合ニ依リ通學セシムルコトアルベシ

第四條 本校生徒ハ入寮ノ際第三號書式ノ在寮誓書ヲ差出スヘシ

第五條 在寮生徒ハ猥リニ退寮ヲ許サズ

第六條 在寮生徒ハ毎月定日マテニ寮費金壹圓拾錢ヲ納ムベシ

但シ在寮一ヶ月ニ滿タル者ト雖モ減額セス

第七條 定期日內ニ寮費ヲ納メサルモノハ登校ヲ差止メ其未納三十日ニ及ブモノハ第九款第三條第五項ニ依リ處分ス

第八條 生徒寮ノ管理ニ關シテハ別ニ細則ヲ設ク

書式

第一號書式

相當印紙

在學証書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御校在學中ハ校規ヲ誠實ニ遵守可致ハ勿論御校學籍ヲ脱候後ト雖モ在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ違背ナク履行可致候若違背致候節ハ連署者ニ於テ一切之ヲ引受可申仍而証書如件

年 月 日 本族籍(戶主又ハ何某男又ハ弟)

現住所

何

某

印

生年 月 日

本人ノ父兄若クハ父兄ノ責ニ任ズベキモノ

本族籍



現住所  
本人ニ對スル關係

何 某 印  
生 年 月 日

第六高等學校長宛

第二號書式

卒業証  
府縣族籍

何 某

何年何月生

右者本校ニ於テ大學豫科第一(二)部ノ學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ証ス

年月日 第六高等學校長位勳學位爵姓名 印

番 號

第三號書式

印紙

在 寮 誓 書

私儀今般御校生徒寮ニ入寮致候ニ付テハ生徒寮規則其他諸規則堅ク相守リ可申此段相誓候也

本籍住所番地

族稱

何科何年生

姓 名 印

生 年 月

前書何某入寮致候ニ付テハ在寮中ハ勿論退寮後ト雖モ同人 在寮中ニ係ル事件ハ拙者ニ於テ一切負擔可致候也



本人ノ父兄若クハ父兄ノ責ニ任スヘキ者

本族籍

現住所

職業

姓

名

印

生 年 月

第六高等學校長何誰殿

第二章 細 則

第一款 教務細則

第一節 授業規程

第一條 授業始ノ時刻ハ振鈴、授業終ノ時刻ハ號鐘ヲ以テ之ヲ報ス

第二條 生徒ハ授業始ノ振鈴ヲ聞クトキハ直ニ着席シ靜肅

ニ教官ノ入場ヲ待ツベシ

第三條 生徒ハ授業ノ始及終ニ於テ教官ニ對シ起立敬禮ス

ベシ

第四條 授業中ハ教官ノ許可ナクシテ教場外ニ出ツヘカラ

ス

第五條 受持教官定刻ニ至ルモ教場ニ出場セザルトキハ教

務課ニ問合せ其指揮ヲ受クルニアラザレバ決シテ隨意退

散スベカラス

第六條 生徒教場ニアリテハ休憩時中ト雖モ靜肅ヲ旨トシ

喧噪ノ舉動アルベカラス

第七條 課業上必要ナル物品ノ外ハ一切教場内ニ携帯スベ

カラス

第八條 病氣又ハ已ムヲ得ザル事由ニヨリ缺課又ハ遲參セ



シ者ハ其事由ヲ詳記シ監督教官ノ承認ヲ受ケ三日以内ニ  
 學校長ニ届出ツベシ但病氣缺課一週日以上ニ涉ルトキハ  
 校醫ノ診斷書ヲ添フベシ  
 第九條 不時ノ發病又ハ急用ニヨリ授業半途ヨリ缺課スル  
 モノハ教務課備付ノ帳簿ニ詳細其理由ヲ記入シ當該學科  
 受持教官ノ承認ヲ經テ退出シ尙ホ事後三日以内前條ノ手  
 續ニヨリ届出ベシ  
 第十條 第八條ノ届出ヲナサ、ルモノハ缺課遲參若クハ半  
 途退出一回毎ニ學年總平均点ヨリ一点ヲ減ス  
 第二節 生徒心得  
 第一條 本校生徒ハ本校規則告示命令ニ服從シ特ニ第五款  
 ノ各條ノ趣旨ニ基キ其本分ヲ忘ルベカラス  
 第二條 本校生徒ハ本校職員ニ對シテハ勿論生徒相互ニ脱

帽敬禮スベシ  
 第三條 本校生徒ハ嚴ニ飲酒ヲ禁ス  
 第四條 卑猥ナル稗史小説ノ類ヲ閱讀シ其他風儀ヲ紊スノ  
 虞アル遊戲ヲナスベカラス  
 第五條 教室内ハ勿論扣所廊下等ニ於テ吐唾又ハ煙草ノ吹  
 殻ヲ棄ツル等總テ汚穢ノ所爲又ハ危險ノ虞アル行爲ヲナ  
 スベカラス  
 第六條 屋内ニ於テハ指定場所ノ外喫烟スベカラス  
 第七條 校内ニ於テハ指定ノ場所ノ外飲食スベカラス  
 第八條 本校所屬ノ建物及器物ヲ毀損シ若クハ汚染シタル  
 モノハ辨償セシメ情狀ニヨリ懲戒ニ處ス  
 第九條 別ニ規程ヲ設ケタルモノハ外生徒ガ差出ス願届書  
 ハ總テ監督教官ノ承認ヲ經ベシ



第十條 本校生徒及其父兄若クハ之ニ代ハルモノニシテ其宿所ヲ變更シ又ハ戶籍上異動ヲ生ゼシトキハ速ニ届出ツベシ

第十一條 本校ノ告示ハ所定揭示場ニ發表ノ上ハ一般ニ知了シタルモノト看做スヲ以テ生徒ハ常ニ注意スヘシ

第十二條 本校生徒ハ舉テ本校所定ノ校友會員トナルベキ義務アルモノトス

第三節 學業成績考查細則  
第一條 各學科ノ成績ニ對シ評點ヲ附ス之ヲ學期評點及ヒ學年評點ノ二種トシ各一百ヲ以テ最高點ト定ム

第二條 各學科ノ學期評點ハ當該學期間ノ日常ノ課業通常試業及ヒ學期試業ノ成績ニヨリテ定ム

第三條 各學科ノ學年評點ハ各學期評點ノ和ニ第三學期試

業評點ヲ加ヘテ四除シタルモノトス

第四條 學期試業ニ缺席シタルモノニハ零點ヲ附ス其缺席ノ理由正當ナリト認めタルモノニハ第一若クハ第二學期試業ニアリテハ他ノ學期評點平均數ノ十分ノ六ヲ附スルコトアルベク第三學期試業ニアリテハ該課目ノ第一第二學期評點平均數六十以上ナル場合ニ限り次學年ノ初、始業後二週日以内ニ追試業ヲ行フコトアルベシ  
前項ノ追試業ニアリテハ其評點ノ十分ノ八ヲ以テ得點トナス

學期試業ヲ缺グコト二回ニ及ヘル者ニハ學年評點ヲ附セ

第五條 停學ノ處分ヲ受ケタル者ニハ其期間試業其他ノ方法ニヨリテ評點ヲ附スル事ナク解停後ト雖モ追試業ヲ行



ノ事ナシ

第六條 學年ノ終ニ於テ各學科學年評點ノ平均數六十以上ニシテ左ノ諸項ノ一ニ當ルモノハ進級又ハ卒業セシム但シ行狀不正ノモノ又ハ日常ノ授業ニ出缺不整ノモノハ學業成績ノ如何ニ關セズ原級ニ止ム

第一項 學年評點六十未滿ノ科目ナキモノ

第二項 學年評點六十未滿ノモノ一課目アルモ其評點五十以上ノモノ又ハ其評點五十以下四十以上ニシテ第三

學期試業評點或ハ學期評點平均數六十以上ノ者

第三項 學年評點六十未滿ノモノ二科目アルモ其評點孰

レモ五十以上ノモノ

第四項 學年評點六十未滿ノモノ三科目以上アルモ其數履修セル總科目ノ三分ノ一或ハ三分ノ一以下ニシテ該

科目皆學年評點五十以上第三學期試業評點或ハ學期評點平均數六十以上ノ者

第四節 生徒寮規程

第一條 在寮生徒ハ生徒寮ノ本旨ニ基キ堅ク本校規則ヲ遵守シ特ニ生徒心得第二條ノ趣旨ヲ体シ其勵行ヲ期スヘシ

第二條 生徒寮ニハ各寮ニ一人ノ委員各室ニ正副二人ノ委員ヲ置キ學校長之ヲ命ス

第三條 寮委員ハ寮務主任ノ指示ニ從ヒ全寮内整理ノ責任シ風紀ノ振肅ヲ圖ルモノトス

第四條 正副委員ハ室内ノ秩序清潔ヲ保持シ兼テ生徒寮ノ風儀ヲ高尚ニスルコトヲ期スヘシ

第五條 各寮ニ若干名ノ委員ヲ選定セシメ寮務課ノ指揮ニ從ヒ炊事ノ監督ヲナサシム



- 第六條 在寮生徒ハ毎朝室内ヲ掃除シ机上所持品夜具ヲ整理シ毎土曜日大掃除ヲ行フベシ
- 第七條 晨起就蓐喫飯沐浴門限等ノ時刻ハ決シテ違フベカラズ
- 時刻ハ隨時之ヲ定ム
- 第八條 外出ノ時刻ハ午前六時ヨリ午後九時迄トス
- 第九條 人員検査ハ毎日門限後十分ニ行ヒ其他臨時ニ之ヲ行フ
- 第十條 在寮生徒ハ居常成ルベク制服制帽ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ纏フトキハ必ず袴ヲ着ケ外出スルトキハ必ず制帽ヲ着用スヘシ
- 第十一條 寮内ニ於テ放歌口論雜談遊戲等研修安眠ヲ妨害スル行為アルヘカラズ

- 第十二條 遊戯其爲スルハ新報小説ヲ閱讀シ又ハ風儀ヲ棄ス處アル遊戯其爲スルヘキ事
- 第十三條 寮室内ニ於テ一切音讀ヲ禁ス
- 第十四條 在寮生徒ハ嚴ニ飲酒ヲ禁ス
- 第十五條 寮内ニ於テ指定ノ場所ヲ除ク外飲食スルコトヲ禁ス
- 第十六條 在寮生徒ハ所定ノ場所モ非レハ集會スルヲ許サズ
- 第十七條 消燈後在寮生徒ノ點燈スルヲ許サズ
- 第十八條 寮室内備付品ノ外猥リモノ燭燭机等ヲ備ヌル者ヲ許サズ直チテ之ヲ取去ラシム場合ニ依リ之ヲ寮務課ニ留メ置ク事
- 第十九條 消燈後特ニ研修ヲ要スル者ハ特別自習室ニ於テ



第三十條 特別自習室ニ於テ研修スル者ハ決シテ一般生徒  
 又安眠ヲ妨グルノ行爲アル可ラス  
 第三十一條 來訪者ニ對シテハ總テ應接室ニ於テ面會スヘ  
 第三十二條 木履又ハ靴ニテ寮ニ上ルヲ許サス一度使用シ  
 上草履ノ使用ハ寮内食堂、病室、浴室ニ限ルモノトス  
 第三十三條 傳染病若シテ容易ニ平癒ス見込ナキ疾病ニ  
 罹リ居ル者ハ退寮セシムルコトヲ豫知シテ外出ス  
 第三十四條 寮門限迄ニ歸寮シ得ザルコトヲ豫知シテ外出ス  
 第三十五條 寮門限後俄カニ不得巳事故生シ特ニ外出セシト

欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ寮務課ノ認許ヲ受クベシ  
 第三十六條 外出後已ムヲ得サル事故生シ門限ニ遅レテ歸  
 寮セシ者ハ直チニ遅刻ノ事由ヲ詳記シ寮務課ニ届出ツベ  
 第二十七條 已ムヲ得サル事故アリテ外泊セントスル者又  
 ハ歸省セントスル者ハ豫メ其事由ヲ詳記シ寮務主任ヲ經  
 テ學校長ニ届出ツヘシ  
 第二十八條 外出中俄ニ外泊スルノ已ムヲ得ザル事故生シ  
 前條ノ手續ヲ爲スニ違ナキトキハ當日人員検査時刻迄ニ  
 其事由ヲ居所トシ寮務課ニ届出デ歸寮ノ際更メテ其理由  
 ヲ詳記シ寮務主任ヲ經テ學校長ニ届出ツヘシ  
 第二十九條 正常ノ理由ナクシテ門限ニ遅刻シ又外泊シタ  
 ル者ハ其情狀ニ依リテ懲戒ニ處ス



第三十條 炊事委員ノ外在寮生徒ハ炊事ニ關シ賄方ニ直接交渉スルカラズ

第三十一條 寮内ノ食料ハ規定ノ期限内ニ支拂フヘシ猥リニ支拂フ怠ル者ハ其情狀ニ依リ適宜處分ス

第三十二條 在寮生徒ハ定時刻ヲ外猥リニ賄方ヲシテ調膳セシムルヲ許サズ

但シ土曜日休業日ノ晝飯及夕飯ニ限り定刻後一時間以内ニ於テハ調膳ヲ求ムルコトヲ得

第三十三條 病氣ヲ爲シ特別ノ食物ヲ要スルモツアルトキハ校醫ノ診斷書ヲ添ヘ其旨寮務課ニ願出ツベシ

第三十四條 豫メ賄方ニ通知シテ一日以上欠食スルハ非ラザレバ食費ヲ減セシムルコトヲ得

第三十五條 通學生ニシテ寮食費ニ於テ食事スルモノ

典對寮内凡シ生徒寮食事ニ關スル規定ヲ適用ス

第三十六條 寮務課ノ許可を得テシテ猥リニ小便ヲ使役スベカラズ

第五節 通學生徒規程

第一條 通學生徒ハ宿所選定ノ日ヨリ三日以内ニ左記書式ノ宿所届ヲ監督教官ノ承認ヲ經テ本校ニ差出スベシ轉宿ノ時亦同シ

第二條 通學生徒ハ其宿所ノ位置宿主ノ職業家庭ノ狀態又ハ其他ノ事情ニシテ不適當ナルトキハ他ニ轉宿ヲ命ゼラル、コトアルベシ

第三條 通學生徒ニシテ生徒寮食堂ニ於テ食事ヲナサント欲スル者ハ豫メ寮務課ニ願出テ許可ヲ受クベシ此場合ニ於テハ生徒寮規則ヲ適用ス



第四條、通學生徒ニシテ生徒寮ニ於テ生徒ニ面會スルニハ  
 必ス生徒寮應接室ニ於テスルシテ、  
 宿所届書式、  
 宿所御届

(監督教官檢印)

- 一 宿所
  - 一 家主姓名職業
  - 一 家族ノ數及其狀態
  - 一 同居者ノ姓名職業
  - 一 親族の關係ノ有無
  - 一 一ヶ月ノ報酬額
- 私儀何月何日ヨリ前記ノ所ニ下宿致候間家主連署ヲ以テ  
 此段御届申上候也

年月日 何部何年何組 姓名 印

第六條、高等學校校長宛  
 第六節、担任教官級長及副級長規程

第六條、各組担任教官一名級長及副級長各一名ヲ置ク

第三條、担任教官ハ教授助教授及講師中ヨリ學校長之ヲ任

第三條、担任教官ハ其管掌スル當該組ノ風紀ヲ正シ學事ヲ

監督シ及校規命令ヲ實行スル期スベシ

第四條、担任教官ノ管掌スル事務ニ概テ左ノ諸項トス

一 生徒ノ學業獎勵及風儀取締ニ關スル事項  
 一 命令ノ傳達諭告等ニ關スル事項



一 生徒ノ履歷書類ニ關スル事項  
 一 生徒ノ勤怠及學業成績ヲ審查ニ關スル事項  
 一 教室備付品ヲ整理保存ニ關スル事項  
 一 教室內ノ衛生ヲ關スル事項  
 一 其外當該組ニ關スル一切ノ事項  
 第五條 担任教官ハ學期末及學年末ニ於テ教務課ヨリ回附  
 スル學業成績調査簿ヲ審査シ學校長ニ進達スベシ  
 第六條 級長副級長ハ生徒ヲ統率ス各區名ヲ互選セシメ其中  
 ニ就キ學校長之任命ス  
 第七條 級長副級長ハ担任教官ノ指揮ヲ受ケ當該組ノ風紀  
 ニ注意シ命令ヲ傳達シ教室ノ秩序整頓ヲ保持スヘシ  
 第八條 担任教官級長副級長ノ任期ハ各一カ年ナリ  
 第七節 監督教官規程

第一條 本校生徒ヲ數部ニ區分シ各部ニ監督教官一人ヲ置  
 キ部下生徒ノ保護監督ノ任ニ當ラシム  
 第二條 監督教官ハ教授助教講師中ヨリ學校長之ヲ命ス  
 第三條 監督教官ハ部下生徒ノ品性學業健康等ニ關シテ特  
 ニ注意ヲ加ヘ機宜ニ應シテ訓戒補導ヲ爲シ本校々規第五  
 款ニ基キ生徒ノ本分ヲ全クセシムルコトヲ期スベシ  
 第四條 監督教官ハ師弟間ノ情誼ヲ厚クシ前條ノ目的ヲ達  
 センカ爲メ適宜ニ部下生徒ノ集會ヲ開クベシ  
 第五條 監督教官ハ部下生徒ヨリ本校へ差出スベキ缺課轉  
 宿、休學其他總テノ願届書ヲ審査シ正當ト認ムルトキハ之  
 ニ捺印スヘシ  
 第八節 評議員規程  
 第一條 本校ニ評議員若干名ヲ置ク



第二條 評議員ハ本校教授中ニ就キ學校長之ヲ命ス  
 第三條 評議員ハ學校長ノ諮詢ニ應シ意見ヲ述ブ

第九節 教授會規程

第一條 教授會ハ本校教授ヲ以テ之ヲ組織シ學校長之ヲ召集ス

但シ場合ニヨリ教授以外ノ職員及講師ヲシテ列席セシムルコトアルベシ

第二條 教授會ハ學校長ノ諮詢ニ應シ左ノ事項ニ付キ審議ス

- 一 學科課程ニ關スル事項
- 一 授業ニ關スル事項
- 一 生徒ノ懲戒ニ關スル事項
- 一 生徒ノ監督ニ關スル事項

一 生徒寮ニ關スル事項

一 前項ノ外學校長ニ於テ必要ト認メタル事項

第三條 教授會ハ必要ニ應シ隨時之ヲ開クモノトス

第十節 服裝規程

第一條 本校生徒ノ服裝ハ左ノ如ク之ヲ制定ス

帽

制式 海軍形

品質 羅紗

色 黑

畧帽

制式 緣三寸五分高二寸五分鉢卷黑布巾一寸五分

徽章正帽ニ全シ

品質 麥藁



帽章

制式 前額部ニ本校所定ノ徽章ヲ附ス

外ニ額部ノ周圍ニ白線二條ヲ附ス

但シ上線ハ幅一分下線ハ幅三分トス

品質 眞鍮

冬服

制式 立襟

品質 小倉若クハセル

色 紺

鈕釦 色黄、品質眞鍮、本校ノ徽章ヲ附セルモノ

夏服

制式 冬服ニ同シ

品質 小倉

外套

色 鼠

鈕釦 冬服ニ全シ

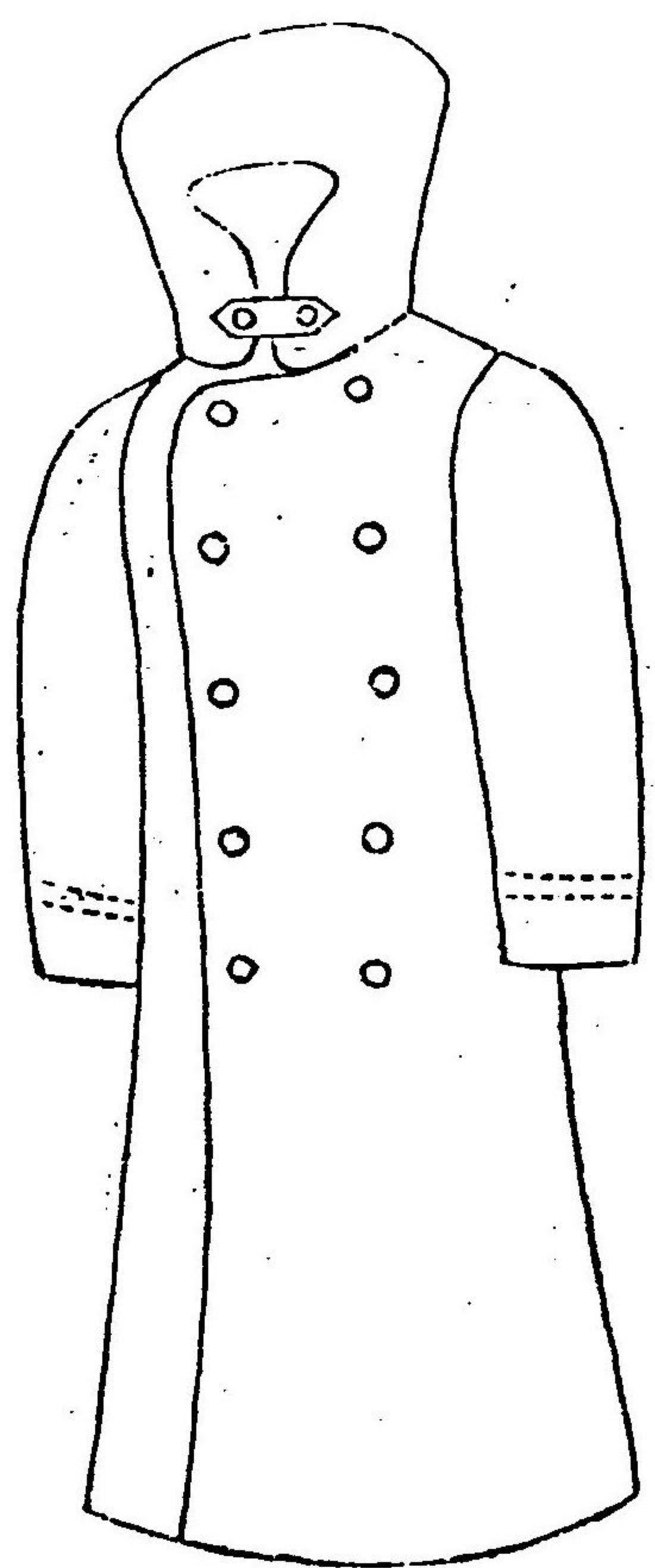
外套

制式 (圖ノ如シ)

品質 (黒又ハ紺ノ羅紗)

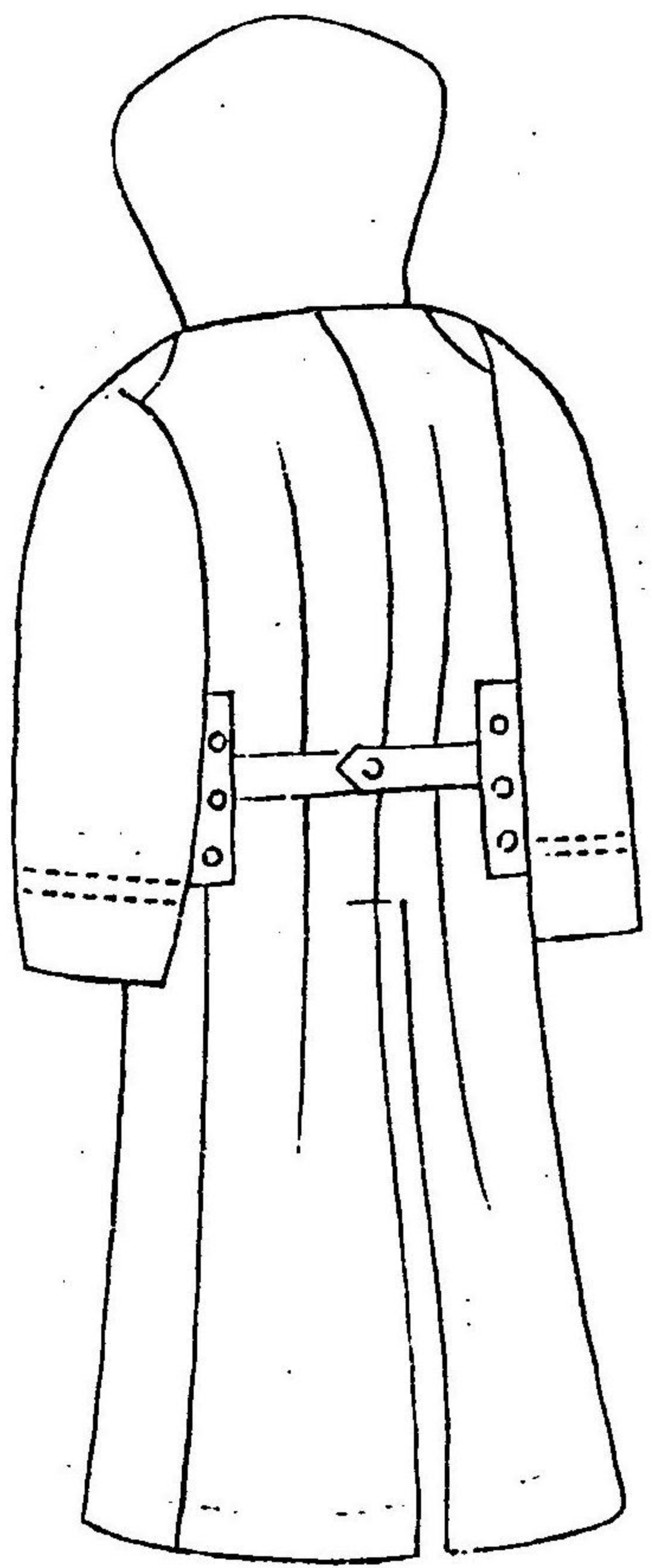
鈕釦 (上着ト同シ)

前面





背面



制式 黒革靴

第二條 左ノ場合ニハ前條制定ノ服装ヲナスヘシ

一 儀式舉行ノ場合

一 授業ヲ受クル場合

一 本校ヨリ特ニ指定シタル場合

第三條 生徒ハ居常成ルベク制服ヲ着用スベシ若シ和服ヲ

着用スルトキハ必ス着袴シ外出ノトキハ更ニ制帽ヲ着スベシ

第十一節 生徒取締規程

第一條 生徒一般ノ風紀ヲ振肅スル爲メ生徒取締ヲ置ク

第二條 生徒取締ハ生徒監ノ指揮ヲ受ケ左ノ事項ヲ管掌ス

一 校ノ内外ニ於ケル生徒ノ取締ニ關スル事項

二 校舎内外ノ整頓ニ關スル事項

三 生徒集會ニ關スル事項

四 生徒服装ニ關スル事項

五 其他風紀ニ關シ臨時必要ト認ムル事項

第三條 生徒取締ハ職務執行ニ關シテ巡視門衛ヲ指揮スルコトヲ得

第四條 生徒取締ハ定時生徒監ヲ經由シ管掌事項ニ付キ學



校長ニ申報スヘシ

第二款 掌務細則

第一節 校務分掌規程

第一條 校務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ各課ヲ置ク

教務課

生徒課

寮務課

庶務課

會計課

文庫課

第二條 各課ニ課長ヲ置ク

第三條 各課ノ課長ハ學校長教授中ニ就キ之ヲ命ス但シ寮務課長ハ生徒監中ニ就キ之ヲ命シ會計課長ハ會計主任ヲ

以テ之ニ充ツ

第四條 各課ノ課長ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ當該課ニ關スル

事務ヲ掌理スヘシ

第五條 各課ニ係員ヲ置ク上官ノ指揮ヲ受ケ各其課ノ事務

ヲ處理ス

第六條 教務課ニ於テ左ノ事務ヲ掌ル

一 學課配當ニ關スル事項

二 教科書ニ關スル事項

三 授業上設備ニ關スル事項

四 教室ニ關スル事項(但特別教室ヲ除ク)

五 生徒ノ訓育及懲戒ニ關スル事項

六 教官會議及評議員會ニ關スル事項

七 教務上ノ命令傳達並ニ通知ニ關スル事項



- 八 生徒ノ入學、在學、退學、休學ニ關スル事項
- 九 生徒ノ學籍ニ關スル事項
- 十 卒業生ニ關スル事項
- 十一 學級編成ニ關スル事項
- 十二 試業及成績ニ關スル事項
- 十三 學力檢定ニ關スル事項
- 十四 特待生ニ關スル事項
- 十五 生徒證明書等ニ關スル事項
- 十六 生徒修學旅行等ニ關スル事項
- 十七 參觀人取扱ニ關スル事項
- 十八 前項ノ外教務ニ關スル一切ノ事項
- 第十七條 生徒課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 生徒ノ風紀取締及衛生ニ關スル事項

- 二 生徒ノ体格檢査ニ關スル事項
- 三 生徒ノ訓誨及懲戒ニ關スル事項
- 四 生徒ノ勤惰ニ關スル事項
- 五 生徒扣所ノ整理ニ關スル事項
- 六 生徒ノ願、伺、届、等ニ關スル事項
- 七 生徒ノ集會、運動會及文書類ニ關スル事項
- 八 監督會ニ關スル事項
- 九 団体旅行ノ取締ニ關スル事項
- 十 級長及副級長ニ關スル事項
- 第八條 寮務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 在寮生徒ノ風紀及衛生ニ關スル事項
- 二 在寮生徒ノ訓育及取締ニ關スル事項
- 三 在寮生徒ノ懲戒ニ關スル事項



- 四 在寮生徒ノ集會及文書類ニ關スル事項
  - 五 生徒寮附所病室浴室其他生徒寮附屬建物ノ整理ニ關スル事項
  - 六 生徒寮ニ屬スル守衛及賄方取締ニ關スル事項
  - 七 前項ノ外生徒寮ニ關スル事項
- 第九條
- 一 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 二 御聖影及勅語ノ保管ニ關スル事項
  - 三 校長ノ官印及校印ノ保管ニ關スル事項
  - 四 職員以上ノ職員ノ進退身分ニ關スル事項
  - 五 備外國人ニ關スル事項
  - 六 各課成按文書回議ノ審査ニ關スル事項
  - 七 公文書類ノ起案記錄ノ編纂及保管ニ關スル事項
  - 八 公文書類ノ授受發送ニ關スル事項

- 八 諸規則ノ創定變更等ニ關スル事項
  - 九 一覽統計報等等ニ關スル事項
  - 十 儀式ニ關スル事項
  - 十一 當直ニ關スル事項
  - 十二 寄附願ニ關スル事項
  - 十三 生徒ノ兵役ニ關スル事項
  - 十四 各課ノ主掌ニ屬セザル校務上ノ事項
- 第十條
- 一 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 二 資金ノ監理ニ關スル事項
  - 三 資金ノ豫算及決算ニ關スル事項
  - 四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 二十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 三十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 四十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 五十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 六十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 七十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 八十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十一 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十二 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十三 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十四 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十五 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十六 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十七 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十八 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 九十九 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項
  - 百 歳入ノ確定收入及証明ニ關スル事項



- 六 物品ノ保管及購買ニ關スル事項
- 七 物品ノ貸借及修理ニ關スル事項
- 八 物品ノ出納及証明ニ關スル事項
- 九 營繕ニ關スル事項
- 十 警備並ニ災害ノ防止及消毒ニ關スル事項
- 十一 本校内外ノ掃除ニ關スル事項
- 十二 不用物品ノ處分ニ關スル事項
- 十三 電話、電燈及給水ニ關スル事項
- 十四 巡視、給仕、校丁以下ノ進退及取締ニ關スル事項
- 十五 門鑑ニ關スル事項
- 十六 人夫ノ備入及其取締ニ關スル事項
- 十七 物品ノ運搬並ニ收受但小包郵便ヲ除クニ關スル事項
- 十八 前項ノ外會計ニ關スル事項

第十一條 文庫課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 圖書ノ監守、保管及出納ニ關スル事項
- 二 圖書印ノ保管ニ關スル事項
- 三 圖書ノ貸付ニ關スル事項
- 四 圖書閱覽室及其取締ニ關スル事項
- 五 圖書ノ目錄編纂及整理ニ關スル事項
- 六 新聞雜誌年報一覽等ノ保管及出納ニ關スル事項
- 七 前項ノ外圖書ニ關スル事項

第二節 事務員服務規程

第一 事務員

第一條 事務員ハ執務時限前ニ昇校シ直ニ出勤簿ニ捺印スヘシ

第二條 當日ニ生シタル事務ハ可成即日處辨スヘシ若シ即



日處辨スヘキ事務ニシテ執務時間中ニ處辨シ終ラサルモ  
 ノアルトキハ退校時限ニ至ルト雖モ事務處辨ノ後ニアラ  
 サレハ退校スルコトヲ得ス

第三條 監督上官ヨリ特ニ命令アルトキハ執務時間外又ハ  
 休日ト雖モ執務スヘシ

第四條 疾病其他ノ事故ニヨリ遅刻セントスルトキ又ハ出  
 勤シ難キ時ハ其事由ヲ具シ執務時限前ニ學校長ニ届出ツ  
 ヘシ但シ疾病ノ爲メ缺勤一週間ニ及フトキハ届書ニ醫師  
 診断書ヲ添フルヲ要ス爾後一週間毎ニ同様ノ手續ヲ爲ス  
 ヘシ

第五條 執務時間中發病其他ノ事故ニ依リ執務ノ場所ヲ離  
 レントスルトキハ其事由ヲ申告シテ學校長ノ許可ヲ受ク  
 ヘシ

第六條 父母ノ忌日ニ丁リ祭典ヲ舉行スル爲メニ不參セム  
 トスルモノハ其旨前日中ニ届出ツヘシ

第七條 親屬ノ喪ニ遇ヒ忌服ヲ受クルトキハ死者ノ氏名並  
 ニ死者トノ親屬關係ヲ表示シタル忌引届ヲ差出スヘシ

第八條 新任ノ者ハ七日以内ニ履歷書印鑑及宿所届ヲ差出  
 スヘシ爾後改印轉居等ハ其都度届出ツヘシ

第九條 出張ノ命ヲ受ケタルモノハ出發ノ際及歸校ノ際共  
 其旨學校長ニ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ歸校後五日以内ニ復命書ヲ學校長ニ  
 提出スヘシ若シ學術研究ノ爲メ出張ヲ命セラレタル場合  
 ニ在リテハ研究ノ結果ヲ報告スヘシ

第十條 出張旅費請求書ハ歸校後三日以内ニ差出スヘシ又  
 出張先ニ於テ臨時必要ヲ生シタル費用即荷造用ノ物品代



若シクハ郵便電信料等私費繰替拂ヲ爲シタルモノアルト  
 キハ歸校後三日以内ニ仕譯書ヲ添ヘ會計課ニ請求スヘシ  
 但シ私費繰替ノ償還請求ニハ確實ナル証憑ヲ添付スルヲ  
 要ス

第十一條 轉免ノ節ハ事務及物品等ノ引繼ヲ爲スヘシ引繼  
 ハ書面ヲ受渡者双方連署ヲ以テ届出ツヘシ

第十二條 火器其他危險物ニ付テハ擔當事務ニ屬スルト否  
 トヲ問ハス事務員互ニ注意シ十分取締ヲ爲スヘシ

第十三條 風水震災其他非常異變アルカ又ハ校内若シクハ  
 其近傍ニ於テ出火アルトキハ速ニ昇校シテ上官ノ指揮ニ  
 從フヘシ

附則

第十四條 本則ハ教官及囑託者ニ準用ス

第二 當直

第十五條 本校當直勤務ハ本校書記及事務雇員輪番ヲ以テ  
 一名宛之ニ任ス其順番ハ別ニ之ヲ定ム

當直勤務ハ場合ニヨリ前項職員以外ノモノニモ命スルコ  
 トアルベシ

第十六條 當直時間ハ左ノ如ク定ム

一 平日ハ退校時限ヨリ翌日昇校時限迄トス  
 二 休日ハ其日ノ昇校時限ヨリ翌日ノ昇校時限迄トス

但シ昇校時間ハ當時ノ執務時間ノ規定ニ從フ

第十七條 左ノ諸項ノ一ニ當ルトキハ當直ヲ免ス

一 出張ヲ命セラレタル者ハ出張中ハ勿論出張ノ前日  
 及歸校ノ翌日  
 二 病氣其他ノ事故ニヨリ本務ヲ缺クモノハ缺勤届出



ノ當日

第十八條 前條ノ事由ニヨリ除直スルモノアルトキハ當直順ハ順次繰上トス

第十九條 當直者已ムヲ得サル事故ニヨリ他ノ當直ノ義務アル職員ヲシテ代番セシメントスルトキハ其旨連署ヲ以テ届出ツヘシ

第二十條 當直ノ義務アル職員新任ノ時ハ出校ノ日ヨリ起算シ一週日ノ後當直順番ニ挿入ス此場合ニ於テハ他ノ當直者ノ順番ハ當然順次繰下クルモノトス又轉免者アルトキハ順番ノ繰上ヲナスヘシ

第二十一條 當直勤務ノ主要ナル事項ハ概テ左ノ如シ

- 一 聖影奉安室及其他ノ鎮鑰並ニ當直日誌ノ保管ヲナスコト

二 巡視校丁等ヲ監督シ校舍内外一切ノ取締ヲ爲スコト

三 往復物件ヲ處分スルコト

四 火器其他火災ノ虞アル器物ニ對シ注意スルコト

第二十二條 當直日誌ニハ左ノ諸件ヲ記載スルヲ要ス

一 當直ノ年月日並ニ宿直者ノ氏名捺印

二 巡視校丁火夫ノ氏名

三 到着若クハ發送セシ物件ノ目録

四 以上諸項ノ外當直中處理シタル事項

第二十三條 當直日誌ハ翌日庶務課長ノ監査ヲ經ヘシ

第二十四條 宿直中接受シタル物件ハ左ノ取扱ヲナスヘシ

- 一 親展公文書並ニ職員宛私文書及其他ノ物件ハ其儘之ヲ留置キ翌日受附係ニ交付シ表記氏名ヲ示サ



ルモノハ各課長ニ引渡スヘシ但外見急速ヲ要スルモノト認め得ヘキモノハ直ニ宛名ノモノ若クハ各課長ニ送達スヘシ

一 親展ニアラサル公文書ハ直ニ開封シ即時之ヲ處理スヘシ

第二十五條 常直中出火近火ハ勿論風水震災盜難等非常ノ異變アルトキハ直ニ學校長ニ其旨ヲ急報シ狀況ニ應シ直ニ臨機ノ處置ヲナスヘシ

第三節 生徒寮掌務規程

第一 寮務課長

第一條 寮務課長ハ生徒ヲ集メテ訓戒ヲ加ヘ生徒寮ニ出頭シテ平生ヲ視察スル等常ニ生徒ノ訓育ニ注意シ生徒寮規則第一條及第二條ノ趣旨ニ基キ其實効ヲ舉クル事ヲ期ス

ヘシ

第二條 寮務課長ノ處理スヘキ主要ナル事項ハ左ノ如シ

一 寮務掛ノ監督

二 生徒ノ訓戒、取締、懲戒ニ關スル件

三 寮務日誌其他重要ナル書類ノ監査

四 生徒ノ集會ニ關スル件

五 生徒ノ體格檢査及體育情況ノ視察

六 生徒寮備品消耗品ノ保管

七 賄方ニ關スル件

八 校醫ノ監督

九 寮内火災ノ警備

十 寮内一般衛生

第二 寮務掛



第三條 寮務掛ハ上官ノ指揮ヲ受ケ寮務ニ關スル日常ノ事務ヲ取ルヘシ

第四條 寮務掛ノ處理スヘキ主要ナル事項ハ概テ左ノ如シ

- 一 生徒寮ニ屬スル巡視、守衛寮丁ノ監督
  - 二 火災警備衛生ニ關スル注意
  - 三 定時人員點檢並ニ在寮生ノ出入ニ關スル監視
  - 四 生徒食品ノ監査
  - 五 在寮疾病者ノ手當
  - 六 生徒寮備品、消耗品ノ整理
  - 七 寮務課ニ屬スル課長印及寮印其他所屬書類ノ保管
- 第五條 實例ナキ事項ハ總テ寮務課長ノ指揮ヲ受ケテ後處理スヘシ若シ至急處分ヲ要スル事項ニシテ指揮ヲ受クルノ暇ナキ時ハ假ニ處分シ其由ヲ寮務課長ニ申告スヘシ

第六條 經伺ヲ要スル事件ハ寮務課長校長ニ進達スヘシ

第四節 文庫規程

第六十一條 文庫ハ本校ノ圖書ヲ貯藏スル所トス

第六十二條 文庫ニ圖書閱覽室ヲ設ク

第六十三條 文庫課員ノ外圖書類ノ出納ヲナスコトヲ得ス

第六十四條 本校職員ニ限リ職務上必要ナル圖書ヲ借受ケ之ヲ文庫外ニ持出スコトヲ得

第六十五條 總テ教室ニ備付ヲ要スル圖書類ハ其學科主任教官之ヲ借受ケ之カ保管ニ任ス

第六十六條 本校職員圖書類ヲ借受ケント欲スルトキハ所定ノ借用証書ヲ差出スヘシ

第六十七條 借受ケタル圖書ノ使用ヲ終リタルトキハ直チニ返納スヘキハ勿論毎年豫定ノ期日迄ニ悉ク返納スヘシ



但時宜ニ依リ臨時返納セシムルコトアルヘシ

第六十八條 總テ貸附セル圖書類ハ每學年末指定ノ期日ニ於テ文庫課員立合ノ上調査スヘシ

第六十九條 凡ソ借受ケタル圖書類ヲ汚瀆毀損若クハ紛失シタルトキハ其事情ニ依リ相當ノ修繕ヲ加ヘシメ又ハ同一ノ代品ヲ以テ之ヲ償ハシムルコトアルヘシ

第七十條 前條ノ場合ニ於テハ借受者ハ速ニ其理由ヲ詳記シタル届書ヲ文庫課長宛差出スヘシ

第七十一條 圖書類ハ一切生徒ニ貸付セス  
但シ圖書閱覽室備附ノ圖書ハ此限ニ非ラス

第七十二條 本校職員ニ非ラサルモ學術篤志ノ者ニシテ圖書閱覽ヲ出願スルトキハ學校長特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

附圖書閱覽室規程

第一條 本校文庫内ニ圖書閱覽室ヲ設ク

第二條 圖書閱覽室ハ本校職員生徒ノ備付圖書ヲ閱覽スル所トス

第三條 閱覽室ハ休日(但シ日曜ヲ除ク)ノ外毎日之ヲ開ク

第四條 閱覽室ハ毎日午前八時ニ開キ午後九時ニ閉ツ  
但シ日曜日ハ午後五時ヨリ之ヲ開ク

第五條 生徒ハ學年ノ始メニ於テ文庫課ヨリ閱覽券ヲ受取ルベシ

第六條 圖書ヲ借受ケント欲スルモノハ指定ノ證書用紙ニ著者名書名部門番號册數姓名年月日等ヲ詳記シ閱覽券ト共ニ之ヲ課員ニ渡スヘシ

第七條 閱覽者ハ一時ニ洋書五册和書十册以上ヲ借受クル



- コトヲ得ス
- 第八條 閱覽室備付ノ圖書ハ凡ヘテ之ヲ室外ニ持出スコトヲ得ズ
- 第九條 借受ケタル圖書ハ他ニ轉貸スルヲ許サス
- 第十條 借受ケタル圖書ノ閱覽ヲ了リタルトキハ直ニ之ヲ返納シ閱覽券ヲ受取ルヘシ
- 第十一條 閱覽室内ニテハ一切音讀談話等其他喧噪ノ舉動ヲナスヘカラス
- 第十二條 借受ケタル圖書ハ鄭重ニ之ヲ取扱フヘシ若シ汚瀆破損若クハ紛失シタルトキハ之ヲ辨償セシム
- 第十三條 前條ノ規程ニ違反スル者ハ退室ヲ命ス
- 第五節 第六高等學校物品會計規程細則
- 第一條 當校所要ノ物品ハ會計課ヨリ之ヲ支給ス

- 第二條 通常所要ノ備品消耗品ハ豫定數ニ基キ物品會計官吏ニ於テ一回又ハ數回ニ交付ノ手續ヲナスヘシ  
但學術用圖書器械標本實驗用品其他臨時所要ノ物品ハ所要ノ都度請求スヘシ
- 第二條ノ二 各部ニ於テハ毎月下旬ニ翌月中所要ノ通常消耗品ノ品目數量ヲ取調べ物品會計官吏ニ報告スヘシ  
但シ本文ノ數量ハ支給豫定數ニ超過スルコトヲ得ズ  
(明治三十七年五月追加)
- 第三條 各部ニ於テ臨時所要ノ物品アルトキハ規定ノ請求用紙ニ品名數量所要ノ事由等ヲ詳記シ當該首席者ヲ經由シテ會計課ニ差出スヘシ  
但シ注文上圖接ヲ要スルモノハ之ヲ添付スヘシ
- 第四條 會計課ニ於テ前條物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ必



要ニシテ適當ナルヤ否ヲ調査シ正當ト認メタルトキハ會計主任及物品會計官吏ヲ經テ校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受ケ購入ノ手續ヲナスヘシ

第五條 物品監守者ハ會計課ヨリ物品ヲ受領シタルトキハ帳簿又ハ證書ニ捺印シテ受領ヲ證スヘシ

第六條 各部ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ監守者ニ於テ規定ノ返付用紙ニ品目數量受領年月日等ヲ記入シ現品ト共ニ直ニ會計課ニ返付スヘシ

第七條 各部ヨリ不用ニ屬シタル物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ物品會計官吏之ヲ調査シ爾後使用ニ堪ユヘキモノハ之ヲ保管シ其目的ナシト認メタルモノハ處分按ヲ具シ物品檢閱委員ノ審査ヲ經テ校長ノ裁決ヲ乞フヘシ

第八條 物品監守者更替シタルトキハ新監守者備品其他ノ

監守簿ニ其受繼年月日ヲ記入シ且ツ記名捺印スヘシ

第九條 職員分課ヲ轉シタルトキ從前受領ノ物品ヲ襲用セントスルモノハ甲課ニ於テハ返付ノ手續ヲナシ乙課ニ於テハ更ニ受領ノ手續ヲナスヘシ

第十條 職員轉免等ニテ不要ニ屬シタル物品ハ當該監守者ニ於テ取纏メ會計課ニ返付スヘシ

第十一條 本規程第九條ニ依リ物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

- 一 備品出納簿
- 一 圖書出納簿
- 一 機械出納簿
- 一 標本出納簿

以上ノ四帳簿ハ備品、圖書、機械及標本ノ出納即チ品目數



量價格納人名及渡シ先等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス

但シ圖書出納簿ハ部門毎ニ機械出納簿標本出納簿ハ各學科ニ區分シ口座ヲ設クヘシ

當分標本出納簿ハ器械出納簿中ニ別口座ヲ設ケ登記スルコトヲ得

一 消耗品出納簿

本簿ハ消耗品ノ出納即チ品目數量價格納人名及渡シ先等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス

二 備品支給簿

本簿ハ命令文書ニ基キ備品ヲ支給シタルトキ其品目數量番號受授年月日等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス

一 通常消耗品支給簿

本簿ハ支給定數ニ基キ支給スル物品ノ品目數量等ヲ記入シ監守者ヲシテ受領ノ印ヲ捺セシムルモノトス

第十二條 文庫課ニ於テハ圖書監守ノ爲左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一 圖書監守簿

本簿ハ部門毎ニ口座ヲ設ケ圖書名冊數受授年月日等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス

但圖書原簿ヲ以テ本條ノ監守簿ニ代用スルコトヲ得

第十三條 物理學教室、化學教室、生物學教室、地質及礦物學教室、圖書及測量教室、体操科ニ於テハ器械及標本監守ノ爲左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一 機械監守簿



一 標本監守簿

本簿ハ各學科所屬ノ器械及標本ノ品目個數受授年月日等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス  
但シ當分備品監守簿中ニ別口座ヲ設ケ登記スルコトヲ得

第十四條

各部ニ於テハ物品ノ監守及遣拂高ヲ明確ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ設クヘシ

一 備品監守簿

本簿ニハ備品ノ品目箇數記番號及受授ノ年月日等ヲ登記シ其現在高ヲ明瞭ニスルモノトス

一 通常消耗品受拂簿

本簿ニハ支給定數ニ依リ受領シタル通常消耗品ヲ每品口座ヲ設ケ其受拂ヲ明記スルモノトス(明治三十七年五

月通常消耗品殘額報告簿ノ項ヲ刪ル)

(第十五條ハ明治三十七年五月刪除)

第十六條

使用中ノ物品ハ物品會計官吏左ノ事項ニ依リ之ヲ監督スヘシ

一 毎年一回備品支給簿及消耗品支給簿ニ依リ各掛ニ付キ

現品ヲ査閲シ及各掛ノ備品監守簿消耗品受拂簿ノ調査

ヲナシ意見アルトキハ校長ニ申報スルコト

一 前項ノ場合ニ於テ物品ノ亡失毀損ヲ發見シタルトキ又

ハ物品ノ使用上ニ付意見アルトキハ校長ニ申報シ其處

分ヲ求ムルコト

第十七條

物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタルモノアルトキハ物品監守者ニ於テ其事實ヲ詳記シ當該首席者之レヲ證明シテ物品會計官吏ニ報告スヘシ



但シ物品會計官吏ニ於テ保管セル物品ヲ毀損シ或ハ紛失シタルトキハ本文ニ準シ直ニ會計主任ニ報告スヘシ

第十八條 物品會計官吏前條(但書ヲ)ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ會計主任ニ回付シ會計主任ハ物品檢閲委員ト共ニ其事ヲ審査シ處分按ヲ具シテ校長ノ裁定ヲ乞フヘシ

第十九條 本規程第十四條第一項ニ依リ校長ハ物品檢閲委員ヲ設ケ毎年其時日ヲ定メテ或ハ臨時ニ當校所有物品ノ保管及使用并消費上ノ可否ヲ檢査セシム

第二十條 物品檢閲委員ハ委員長一名委員若干名トシ毎年六月之ヲ任命シ其任期ハ翌年五月ニ終ル

第二十一條 物品檢閲ノ期日及檢閲委員ノ氏名ハ豫メ各部ヘ通牒スルモノトス

第二十二條 物品檢閲委員ノ檢査スヘキ要項ハ左ノ如シ

一 物品保管ノ適否

一 物品使用ノ適否

一 物品缺損ノ有無

一 備品及消耗品支給定數ノ過不足

一 其他ノ事項

第二十三條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ付テハ物品會計官吏若クハ代理者使用中ノ物品ニ付テハ物品監守者又ハ物品取扱主任者其席ニ列シ檢閲委員ノ質問ニ答フヘキモノトス

第二十四條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障アルトキハ當該責任者ヨリ顛末書ヲ差出サシムヘシ

但シ顛末書ニハ當該主席者ノ檢印ヲ要ス

第二十五條 物品檢閲委員其檢閲ヲ終リタルトキハ檢閲ノ



情況及物品一般ノ現情並ニ物品ノ使用及支給上ノ適否ニ付意見ヲ具シ校長ニ申報スヘシ

第二十六條 物品檢閲委員長ハ物品檢閲上必要ナリト認ムルトキハ校長ノ認可ヲ經テ書記ヲ設ケ校員ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十七條 本規程第十八條ニ依リ設定セル帳簿ノ様式ハ別紙ノ如シ

(別紙略)

附 錄

(一) 食費ニ關スル規程

第一條 食費ハ毎月十六日ヨリ末日迄ニ支拂フモノトス若シ期限内ニ支拂得サル者ハ必ス翌月十日迄ニ支拂フヘシ  
第二條 前條ノ規程ニ背キタル者ハ食費完済ニ至ル迄停學

ヲ命ズ

第三條 通學生徒ニシテ食堂ニ於テ喫食セントスル者ハ先ツ寮務課ニ願出テ其許可ヲ受クヘシ

第四條 食堂ニ於テ喫食スル通學生ニ對シテハ在寮生ト等シク食事ニ關スル規程ヲ準用ス

(二) 本校生徒ニシテ入學試験ヲ受クルノ件

本校生徒ニシテ修學部類ヲ變更センガ爲メニ在學ノ儘更ニ高等學校ノ入學試験ヲ受ケントスルトキハ豫メ學校長ノ許可ヲ得ルヲ要ス

右場合ニ於テ試験ヲ受クルノ目的單ニ學校ヲ變更セントスルニ在ルトキハ之ヲ許可セス

(三) 授業料及寄宿料徴收細則

並ニ未納者取扱手續 (四一九二一、發表)



第一條 授業料及寄宿料徴收期日ハ本校規則第一章第十一  
 款授業料第一條及ヒ第一章第十二款生徒寮規程第六條ニ  
 據リ之ヲ徴收ス

第二條 授業料及寄宿料徴收期日ヲ過キテ納付ノ義務ヲ生  
 シタルモノハ其義務ヲ生シタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ徴  
 收ス

第三條 授業料及寄宿料ハ徴收期日内ニ於テ一定ノ納付書  
 ニ依リ會計課ニ於テ之ヲ徴收スベシ

第四條 會計課ニ於テ前條納付書ニ依リ現金ヲ領收シタル  
 トキハ既定ノ領收証書ヲ交付スベシ

但シ授業料ニ在テハ第二學期及第三學期寄宿料ニ在テ  
 ハ翌月ヨリ豫テ交付セル領收証書ヲ納付書ニ添ヘ提出  
 セシムルモノトス

第五條 病氣其他ノ事故ニ依リ歸郷又ハ他ノ地方ニアルモ  
 ノハ郵便爲替ヲ以テ納付セシムルモノトス

第六條 領收証書ヲ遺失亡失シタルモノアルトキハ本人ヨ  
 リ理由書ヲ提出セシメ更ニ交付スベシ

第七條 授業料及寄宿料納期日内ニ納付セザルモノアルト  
 キハ會計課ニ於テハ其未納者ノ氏名ヲ授業料ニ在テハ生  
 徒課ニ寄宿料ニ在テハ寮務課ニ通知スベシ

第八條 會計課ニ於テハ前條未納者ヨリ徴收シタルトキハ  
 即日授業料ニ在テハ生徒課ニ寄宿料ニ在テハ寮務課ニ之  
 ヲ通知スベシ

第九條 怠納三十日ニ及フモ尙ホ納付セサルモノアルトキ  
 ハ會計課ハ更ニソノ氏名ヲ教務課ニ通知スベシ

第十條 教務課ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ本校規



則第一章第九款第三條ニ依リ處分シ其結果ヲ會計課ニ通知スヘシ

第十一條 會計課ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ關係帳簿ニ記入シ該通知書ハ會計検査ノ資料トシテ編纂保管スベシ

(四) 重要揭示

○ 揭示場ニ生徒ヨリ揭示ヲ爲スノ件 (四二、九、一六發表)  
一 校友會ノ部ニ係ル事件ノ揭示ハ其部々長ノ認印ヲ受ケ校友會一般ニ係ル事件ノ揭示ハ副會長ノ認印ヲ受ケ且ツ揭示ノ位置ニ付テハ生徒課ノ指圖ニ從フヘシ  
二 校友會ニ關セサル揭示ハ生徒課ノ許可ヲ得タル後ニアラサレハ揭示スルヲ得ズ  
三 揭示ノ期間ハ三日トス若シ其以上ニ涉リ揭示ノ存留ヲ要

スルモノハ期限ヲ定メテ生徒課ノ許可ヲ受クヘシ

揭示ニハ揭示ノ日並ニ三日以上ニ涉ル揭示ハ其期限ヲモ表示スヘシ

四 揭示多數ニシテ同時ニ都テノ揭示ヲ爲ス能ハサル場合ニ於ケル揭示ノ順次ヲ左ノ如ク定ム

(イ) 第一次 校友會中央部ノ揭示

第二次 校友會各部ノ揭示

第三次 以上ニ記載セル以外ノ揭示

(ロ) 各部門ニ在テハ揭示ノ許可ヲ得タル順ニヨル  
(ハ) 校友會ニ關セサル揭示ハ其揭示ノ期間中ト雖モ校友會ノ揭示ヲ爲スノ急要ニヨリ之ヲ撤スルコトアルヘシ

○ 他學校生徒トノ競技ニ關スル件 (四二、九、一八日發表)

一、他高等學校生徒トノ競技ハ春夏冬ノ三期休業間ニ限リ



第一條 授業料及寄宿料徴收期日ハ本校規則第一章第十一款授業料第一條及ヒ第一章第十二款生徒寮規程第六條ニ據リ之ヲ徴收ス

第二條 授業料及寄宿料徴收期日ヲ過キテ納付ノ義務ヲ生シタルモノハ其義務ヲ生シタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ徴收ス

第三條 授業料及寄宿料ハ徴收期日内ニ於テ一定ノ納付書ニ依リ會計課ニ於テ之ヲ徴收スベシ

第四條 會計課ニ於テ前條納付書ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ既定ノ領收証書ヲ交付スベシ

但シ授業料ニ在テハ第二學期及第三學期寄宿料ニ在テハ翌月ヨリ豫テ交付セル領收証書ヲ納付書ニ添ヘ提出セシムルモノトス

第五條 病氣其他ノ事故ニ依リ歸郷又ハ他ノ地方ニアルモノハ郵便爲替ヲ以テ納付セシムルモノトス

第六條 領收証書ヲ遺失亡失シタルモノアルトキハ本人ヨリ理由書ヲ提出セシメ更ニ交付スベシ

第七條 授業料及寄宿料納期日内ニ納付セザルモノアルトキハ會計課ニ於テハ其未納者ノ氏名ヲ授業料ニ在テハ生徒課ニ寄宿料ニ在テハ寮務課ニ通知スベシ

第八條 會計課ニ於テハ前條未納者ヨリ徴收シタルトキハ即日授業料ニ在テハ生徒課ニ寄宿料ニ在テハ寮務課ニ之ヲ通知スベシ

第九條 怠納三十日ニ及フモ尙ホ納付セサルモノアルトキハ會計課ハ更ニソノ氏名ヲ教務課ニ通知スベシ

第十條 教務課ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ本校規



則第一章第九款第三條ニ依リ處分シ其結果ヲ會計課ニ通知スヘシ

第十一條 會計課ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ關係帳簿ニ記入シ該通知書ハ會計検査ノ資料トシテ編纂保管スベシ

(四) 重要揭示

- 揭示場ニ生徒ヨリ揭示ヲ爲スノ件 (四二、九、一六發表)
- 一 校友會ノ部ニ係ル事件ノ揭示ハ其部々長ノ認印ヲ受ケ校友會一般ニ係ル事件ノ揭示ハ副會長ノ認印ヲ受ケ且ツ揭示ノ位置ニ付テハ生徒課ノ指圖ニ從フヘシ
- 二 校友會ニ關セサル揭示ハ生徒課ノ許可ヲ得タル後ニアラサレハ揭示スルヲ得ズ
- 三 揭示ノ期間ハ三日トス若シ其以上ニ涉リ揭示ノ存留ヲ要スルモノハ期限ヲ定メテ生徒課ノ許可ヲ受クヘシ

揭示ニハ揭示ノ日並ニ三日以上ニ涉ル揭示ハ其期限ヲモ表示スヘシ

四 揭示多數ニシテ同時ニ都テノ揭示ヲ爲ス能ハサル場合ニ於ケル揭示ノ順次ヲ左ノ如ク定ム

(イ) 第一次 校友會中央部ノ揭示

第二次 校友會各部ノ揭示

第三次 以上ニ記載セル以外ノ揭示

(ロ) 各部間ニ在テハ揭示ノ許可ヲ得タル順ニヨル  
(ハ) 校友會ニ關セサル揭示ハ其揭示ノ期間中ト雖モ校友會ノ揭示ヲ爲スノ急要ニヨリ之ヲ撤スルコトアルヘシ

○ 他學校生徒トノ競技ニ關スル件 (四二、九、一八日發表)  
一、他高等學校生徒トノ競技ハ春夏冬ノ三期休業間ニ限リ



之ヲ許スモ其他ノ時期ニ於テハ一切許可セサルコト

二、高等學校外ノ諸學校生徒トノ競技ニ付テハ左ノ通リトス  
ルコト

(イ) 競技ノ爲メ本校ヨリ生徒ノ出張スルモノハ前項三休業  
期間ノ外ハ一切之ヲ許可セス

(ロ) 競技ノ爲メ先方ヨリ來校スルモノナルトキハ土曜日ノ  
午後及休業日ニ限り之ヲ許スモ其他ハ一切許可セス

三、第一項及第二項第(イ)號ノ三休業期間ト雖モ多數生徒ノ出  
張スル場合又ハ出張ノ場所遠隔ナルカ其他多額ノ經費ヲ  
要スル場合ニ於テハ之ヲ許可セズ

○生徒ノ集會ニ關スル件 (四二、九二三日發表)

一 生徒集會ヲ催サントスルトキハ必ス左記手續ヲ經由スヘ  
シ

集會ヲ催サントスルトキハ必ス主催者ヲ定メ其主催者ヨ  
リ左記事項ヲ在寮生ノミノ集會ハ寮務課長ニ其他ノ集會  
ハ都テ生徒課長ニ届出テ豫メ許可ヲ受クベキコト

(イ) 集會ノ目的

(ロ) 集會ノ場所

(ハ) 會同スル者ノ組名姓名

二 料理屋ニ於テスル集會ハ嚴禁ス

三 如何ナル場合ニ於テモ飲酒ハ嚴禁ス



○職員

(明治四十三年九月三十日現在)

學校長	理學士	酒井佐保	高知縣
生徒監	文學士	秋月胤繼	東京府
教授	文學士	岡野義三郎	大坂府
倫理學、心理學、論理學、英語、	文學士	三輪田輪三	東京府
數學	理學士	大渡忠太郎	東京府
動物學、植物學	理學士	足立謙吉	東京府
陸軍歩兵中尉	文學士	滿田新造	福島縣
歷史、漢文	文學士	澤井要一	東京府
獨語	文學士	秋月胤繼	東京府
漢文	文學士		

歷史	文學士	內藤馬藏	岡山縣
英語	PH. D (Yale)	三宅亥四郎	廣島縣
英語	D. B. (Harvard)	廣津友信	福岡縣
國語		松尾哲太郎	岡山縣
獨語		原榮	岡山縣
地質及礦物	理學士	生田巖太郎	群馬縣
清國政府應聘中	理學士	八木正衛	高知縣
獨語	文學士	伊東茂松	山形縣
英語	M. A. (Yale)	蒲原重實	佐賀縣
英語	文學士	落合貞三郎	島根縣
國語	文學士	大倉本澄	大坂府
獨語	文學士	志田義秀	富山縣
	文學士	西島慶次郎	山口縣



職員并ニ教務事務分配

百四十四

化學	理學士	辻 卓爾	岡山縣
獨語	池山 榮吉	東京府	
化學	窪美 温	富山縣	
數學	秋山於菟麿	東京府	
講師			
體操	陸軍歩兵大尉	服部 克己	兵庫縣
體操	陸軍歩兵少尉	小林長二郎	岡山縣
體操	陸軍歩兵少尉	藤原 嵩三	岡山縣
測量	岡山縣立工業學校教諭	中村宇太郎	岐阜縣
獨語	工學士	鈴木恒治	岩手縣
法律、經濟學、英語、岡山縣立商業學校教諭	法學士	岡本一郎	山口縣
獨語	文學士	天沼 貴彦	東京府
物理學	文學士	荒木吉次郎	熊本縣

物理學	理學士	雜賀修二郎	大分縣
國語、漢文	文學士	吉田 貞一	岡山縣
英語	文學士	佐々木 邦	靜岡縣
物理	理學士	佐野 榮治	福岡縣
英語	備外國人教師	Roger Julius Inglott.	英國人
獨語、羅甸語	獨語、羅甸語	Clemens. Scharnschmidt.	獨國人
獨語、羅甸語	獨語、羅甸語	Franz Otto Hellfisch.	獨國人
英語、羅甸語	英語、羅甸語	B. A. (Oxford) Vurtier. Lindsay. Sadler.	英國人
助教			
體操		日下庄太郎	岡山縣
體操科	囑託教員		
		堀 正矩	京都府

職員并ニ教務事務分配

百四十五



地質及鑛物學授業補助	中野實	岡山縣
書學及測量科授業補助	中島涉	岡山縣
國語及漢文科授業補助	戶田良一	岡山縣
生物學授業補助	小林晴治郎	岡山縣
化學授業補助	戶次璣	岡山縣
書學及測量科授業補助	鹽田貫三郎	岡山縣
陸軍歩兵少尉	武田征太郎	岡山縣
生物學授業補助	木村壽久	岡山縣
物理學授業補助	新井穆	北海道
書記	小野磯次郎	岡山縣
	河合堯永	岡山縣
	板野猪三次	岡山縣

雇員	岡定一郎	岡山縣
	井上光男	岡山縣
	松本鉄太	岡山縣
	荒木寧	岡山縣
學校醫	佐久間章一郎	岡山縣
擊劍教師	阿部實晟	岡山縣



○評議員

教授	岡野義三郎
全	三輪田輪三
全	大渡忠太郎
全	足立謙吉
全	滿田新造
全	秋月胤繼
全	内藤馬藏
全	廣津友信
全	松尾哲太郎

○教務分擔  
担任教官

一部三年甲組	教授	岡野義三郎
一部三年乙組	全	生田巖太郎
一部三年丙組	全	廣津友信
二部三年甲組	全	三輪田輪三
二部三年乙組	全	窪美温
三部三年ノ組	全	池山榮吉
一部二年甲組	全	内藤馬藏
一部二年乙組	全	落合貞三郎
一部二年丙組	講師	鈴木恒治
二部二年甲組	教授	松尾哲太郎
二部二年乙組	全	辻卓爾



職員并ニ教務事務分配

三部二年ノ組	全	澤井要一
一部一年甲組	全	志田義秀
一部一年乙組	全	三宅亥四郎
一部一年丙組	講師	天沼貴彦
二部一年甲組	教授	蒲原重實
二部一年乙組	全	秋山於菟麿
三部一年ノ組	全	大渡忠太郎

○學科主任

倫理學、論理學、心理學、法律及經濟學	教授	岡野義三郎
數學、物理學	全	三輪田輪三
動物學、植物學、地質學、鑛物學	全	大渡忠太郎
歷史	全	滿田新造
獨語、羅句語	全	澤井要一
國語、漢文	全	秋月胤繼
英語	全	三宅亥四郎
圖書及測量	全	松尾哲太郎
化學	全	辻卓爾
体操科	講師	服部克己
主任	○生徒取締	
主任	講師	服部克己

職員并ニ教務事務分配



全	小林長二郎
全	藤原 崑三
助教授	日下庄太郎

○事務分課

(一) 教務課

(兼) 書記 小野 磯次郎  
 (兼) 囑託教員 堀 正 矩  
 囑託教員 戸 田 良 一

(二) 生徒課

長

教授 足 立 謙 吉  
 (兼) 講師 服 部 克 己  
 (兼) 書記 小野 磯次郎  
 囑託教員 堀 正 矩  
 (兼) 囑託教員 戸 田 良 一

(三) 寮務課

長

生徒監教授 秋 月 胤 繼



長

(四) 庶務課

講師 小林長二郎  
 全 藤原 崑三  
 助教授 日下庄太郎  
 嘱託教員 鹽田貫三郎

教授 大渡忠太郎

書記 小野磯次郎

雇 荒木 寧

長

(五) 會計課

書記 新井 穆

全 板野猪三

雇 松本 欽太

全 岡 定一郎

長

(六) 文庫課

教授 松尾哲太郎

書記 河合 堯永

雇 井上 光男



生徒

平岡山民縣	平靜岡民縣	平岡山民縣	士廣島族縣	平岡山民縣	平靜岡民縣	士兵庫族縣
土井原堯二	本目秀壹	岡野清豪	太刀掛陣一	長安陸五	宮本英雄	町田成美
平兵庫民縣	平奈良民縣	平岡山民縣	平香川民縣	平大坂府	清	平岡山民縣
塩濱寅一	關健三郎	池上稟三	八十川正義	和田孫吉	張	吉岡堅太郎
平廣島民縣	士東京族府	平岡山民縣	平岡山民縣	平愛媛民縣	平島根民縣	平岡山民縣
太平藹一	和氣鶴太郎	石黒琢磨	大原五一	三木通三	吉田賢男	守分十

○生徒姓名

(明治四十三年九月三十日現在)

備考

姓名ノ傍ニ(特)トアルハ特待生ナリ(清)トアルハ清國學生

(推)トアルハ無試験入學者ナリ

又外國學生ノ傍ニ講トアルハ聽講生ナリ

一部三年甲類



生徒

東京府 久松來介	和歌山縣 岩田玉之助	平島根縣 大石廣足
平岡山縣 定兼料平	山口縣 原鴻太郎	大坂府 吉村信太郎
廣島縣 池田信夫	東京府 筒井信治	

一部三年乙類

大分縣 後藤多賀雄	平岡山縣 石井直三郎	平岡山縣 市岡乙熊	平岡山縣 松田良四郎	平岡山縣 千輪清	平岡山縣 渡邊彥士
平愛媛縣 高橋太愚	平新潟縣 清水俊榮	平愛知縣 磯部康吉	平佐賀縣 御厨準四郎	平愛知縣 吉田照畔	東京府 草間時光
平廣島縣 島末如水	平福島縣 上遠野長重	平奈良縣 矢追進	東京府 伊東六郎		

一部三年丙類

京都府 梶田三郎	福井縣 古川鈺一郎	岡山縣 富海教全
-------------	--------------	-------------

平香川縣 山本守一	平兵庫縣 中治武二	山口縣 石川正義	平岡山縣 安原舜一	奈良縣 樋山良廣
平靜岡縣 松岡峻三	平島根縣 保科彰	平廣島縣 石原繁一	平香川縣 宮武友政	平廣島縣 吉原一夫
平愛媛縣 伊藤達夫	平香川縣 木村幾太	平和歌山縣 八塚英一		

二部三年甲類

平大坂府 吉井無等	平岡山縣 柳澤芳次郎	平岡山縣 上岡行藏	平兵庫縣 三田良二	平茨木縣 齋藤虎男	平島根縣 西田哲二
平香川縣 吉田謹平	平廣島縣 片岡盛一	平和歌山縣 阿曾沼均	平廣島縣 栗栖久太郎	平東京府 黒田修三	平廣島縣 金原柔次郎
平大坂府 岡敬藏	平沖繩縣 田中胖	平岐阜縣 高橋澤衛	平奈良縣 山崎寛二郎	平香川縣 蒲生明	東京府 野津勝造

生徒

三

二















平島取民縣	平島民縣	平岡山民縣	平岡山民縣	平香川民縣	平島根民縣	平愛知民縣	清島民縣	平廣島民縣	平兵庫民縣
福見貞治	守屋信一	河西恒太	中野真吾	飯田蕙	三輪幸左衛門	李承幹	河野倘一	河野倘一	藪内竹一
廣島族縣	平岡山民縣	平岡山民縣	平岡山民縣	平岡山民縣	平岡山民縣	平岡山民縣	平岡山民縣	平岡山民縣	平岡山民縣
伊藤 覈	三宅廉太郎	三上 昭	圓山準吉	芝喜代二	渡邊 甲	長澤圭五	吉村作二郎	吉村作二郎	戶田薰一
奈良民縣	平奈川民縣	平大坂民府	平滋賀民縣	平岩手族縣	平岡山民縣	清島民縣	清島民縣	平山形民縣	平香川民縣
松谷安治	伏島信九郎	小原知時	前川繁次郎	永田 巖	石原讓平	吳道南	胡光旭	高橋省造	和田清太郎

二部二年乙類

平東京府 大關竹三郎  
平京都府 高田龜太郎  
平山形民縣 高橋省造  
平香川民縣 和田清太郎  
平愛媛民縣 矢野義治

三部二年

平廣島民縣	平岡山族縣(特)	平東京府	平東京府	平東京府	平東京府	平東京府	平東京府	平東京府	平東京府
田部華吉	次田 剛	中村孝二郎	小杉 銳造	三宅 馨	福永 鴻介	山口 隆一	愛媛民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣
平岡山民縣	平岡山族縣(特)	平愛媛族縣	平愛媛族縣	平愛媛族縣	平愛媛族縣	平愛媛族縣	平愛媛族縣	平愛媛族縣	平愛媛族縣
水河卓爾	橫田小人大	山崎 義政	吉岡 寅吉	大久保 元次郎	山羽 貞夫	松本 茂吉	平東京府	平東京府	平東京府
平德島民縣	平廣島民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣
大栗利二	森 俊造	玉井 則衛	岡本 隆治	海老原 環	杉山 久夫	彭道中	平愛媛民縣	平愛媛民縣	平愛媛民縣
平廣島民縣	平廣島民縣	平廣島民縣	平廣島民縣	平廣島民縣	平廣島民縣	平廣島民縣	平廣島民縣	平廣島民縣	平廣島民縣
國廣 寬一	石川 正臣	宮下 保雅	村上 豐	村上 豐	村上 豐	村上 豐	村上 豐	村上 豐	村上 豐



平石川 尾形弘	平岡山 島村金輔	平廣島 進藤憲	平廣島 香川三之助	平廣島 坂本新	平廣島 吉川英作	平廣島 坂井毅	平廣島 尾城誠	平廣島 小武夫	平廣島 後藤元彦	平廣島 蔭山巖	平廣島 愛媛族
鹿兒島 池田章	平廣島 上田定雄	平廣島 上村親一郎	平廣島 土屋幸夫	平廣島 淺見丈次郎	平廣島 須磨習之	平廣島 山田瑠	平廣島 今井了五郎	平廣島 大野黎	平廣島 池山清	平廣島 松原良一	平廣島 香川族
平廣島 植村英雄	平廣島 福島林平	平廣島 山本寬二	平廣島 石川保良	平廣島 林國久	平廣島 神崎豐司	平廣島 蘆田利一	平廣島 館川四郎	平廣島 金谷材吉	平廣島 岡山族	平廣島 岡山族	平廣島 岡山族

一部一年甲類

平神奈川 皆川量平	朝鮮 俞萬兼	朝鮮 金雨英	岡山族 推小野六郎	岡山族 推山下元一	長野縣 塩澤欽一郎	山口縣 宮村義也	大坂府 加茂馨二郎	東京府 三角武雄	岡山府 片山敏男	愛媛縣 村上龍太郎	廣島縣 越智兵一郎	岡山縣 鈴木秀一郎
平廣島 酒井五作	平廣島 山崎源吉	平廣島 酒本四郎	平廣島 荻野藤治	平廣島 星島完雄	平廣島 原口強	平廣島 若菜進	平廣島 大關龍雄	平廣島 中川兼雄	平廣島 巖谷於菟磨	平廣島 長谷部丈	平廣島 小崎半二郎	平廣島 米澤彌次郎
平岡山 守田種夫	平岡山 長岐鷺郎	平岡山 水川潔	平岡山 練木格一郎	平岡山 北村千百	平岡山 沼本貞	平岡山 高塚憲太郎	平岡山 小橋秀雄	平岡山 奧條義一	平岡山 若松誠三郎	平岡山 池上達海	平岡山 小川建太郎	平岡山 孝橋謙次郎







平岡山民縣	三宅豐	平德島民縣	米澤國吉	平岡山民縣	池田寬
平東京民府	木村豐吉	平廣島民縣	藤井賢造	平愛知民縣	安藤祿三
土廣島族縣	岡本文次郎	平高知族縣	濱田清馬	平奈其族縣	西川寅造
土岡山族縣	津村康	平大坂民府	江田良雄	土大分族縣	井澤省一
平福井民縣	出石於菟彦	平新潟民縣	田中慶治	平香川民縣	木村清茂
平岡山民縣	千秋直道	平鳥取民縣	五井節藏	土島根族縣	田部顯穗
平香川民縣	長尾寬一	平岡山民縣	中井廣道	平和歌山民縣	岡山加藤正人
士熊本族縣	河部健助	平德島民縣	若林英治	平和歌山民縣	平太田義雄
平島根族縣	勝部兵助	平岡山民縣	橋本能保利	平大坂民府	末次三郎
士福岡族縣	田中寬	平岡山民縣	有元剛		

二部一年甲類

平岡山民縣	中村啓太	平兵庫民縣	今井政二郎	士東京族府	中川剛介
平岡山民縣	仁科芳雄	士岡山族縣	金島英雄	平廣島民縣	有元三郎
平愛知族縣	野山整一	士新瀉族縣	四方田貞	士廣島族縣	江口孝太郎
士愛媛族縣	伊藤憲吉	平廣島民縣	三宅好造	平廣島民縣	岡本實夫
平廣島民縣	村上雄吉	平大分族縣	小坂豐三	平大分族縣	淺野茂夫
清	黃紹誠	平岡山族縣	岡村勇	平岡山族縣	大森鐵二郎
平香川民縣	肥谷源一郎	士熊本族縣	天野寬	平熊本族縣	富田高行
平廣島民縣	多田野真一	平廣島民縣	平山良吉	平高知民縣	三宮安吉
士埼玉族縣	牧野真一	平香川民縣	推谷爲一	平岡山民縣	三宅三郎
平靜岡民縣	鈴木新吉	士鳥取族縣	推安藤真雄	平廣島民縣	竹鶴可文
平岡山民縣	小野美造	平愛知民縣	石川盛次	士東京族府	成川次郎
平山口族縣	中西甚作	平岡山民縣	推高見祥平		







平島縣	平東京府	平岡山縣	平愛媛縣	平大阪府	平北海縣	平栃木縣
伊藤醇造	大城鎮和	石川信一	矢內原安昌	富士貞吉	松本剛太郎	和田彪二郎
平島縣	平岡山縣	平廣島縣	平廣島縣	平香川縣	平岡山縣	平愛媛縣
松兼盛治	大川七郎	竹本主稅	池田龍一	寺島吉締	淺沼正太	村上鎮夫
平歌山縣	平香川縣	平三重縣	平愛媛縣	清	清	清
田伏辰次郎	久保鹿太郎	杉野孫四郎	森信行	徐誦明	王修瑾	王修瑾

○卒業生姓名

大學豫科第一回卒業生(明治三十六年六月三十日卒業)

一部甲

平愛知縣	平兵庫縣	平岡山縣	平愛媛縣	平岡山縣
清水益太郎	長澤一夫	妹尾盛親	加地歌三郎	吉田貞一
平兵庫縣	平岐阜縣	平福岡縣	平愛媛縣	平廣島縣
天宅敬吉	成瀬澄三郎	大原保	告森喬	山下三郎
平東京府	平岡山縣	平岡山縣	平岡山縣	平岡山縣
小林愛雄	青木(元彌)勘	山口		
兵庫縣	大阪府	大阪府	大阪府	大阪府
山本一作	田中薰	岸本良和		
一部乙	一部甲	二部甲		



平岡民縣	小野鑑正	平岡民縣	松井貴太郎	愛知族縣	北村五十彦
兵庫族縣	岡崎幸人	京都府	杉本德三	岡山族縣	坂本鑑四郎
平岡民縣	鷺見眺雄	平岡民縣	犬飼壽太郎	高知民縣	島田稻喜
平岡民縣	武藤與作	滋賀民縣	市田菊次郎	平岡民縣	芳田直三郎
士烏取族縣	圓城寺規	士岐阜族縣	大橋(元奥喜)綏彦	平岡民府	山本和七

二部乙

平富山民縣 土井多四郎

三部

平島根民縣	藏光長次郎	平大坂民府	吉川順治	平三重民縣	丹羽元亮
平和歌山民縣	龜井徳次郎	平三重民縣	友松佳雄	士和歌山族縣	池端俊雄
平奈良民縣	喜多幸次郎	平兵庫民縣	竹本(元景山)榮	平岡山民縣	多胡雄

第二回卒業生 (明治三十七年七月五日卒業)

英一部

平岡山民縣	高橋文五郎	士島根族縣	關屋政徳	士岡山族縣	原田徳三郎
士宮崎族縣	柿原政一郎	平佐賀民縣	藤田積造	平岡山民縣	石井林藏
平岡山民縣	横田誠一郎	士岡山族縣	金万庸次	平岡山民縣	戸部十二郎
平愛媛民縣	相原熊太郎	士長崎族縣	浦瀬七太郎	平徳島民縣	重田幸吉
平岡山民縣	松本卓爾	平京都府	中院富壽	平岡山民縣	日笠祐一郎
平廣島民縣	加計正文	平奈良民縣	戸尾龜太郎	平静岡民縣	芝口鏡一
平兵庫民縣	森本豊治郎	平愛知民縣	山田一	平大坂民府	柳原達

獨一部

平廣島民縣	築島信司	平兵庫民縣	山本芳治	平宮崎民縣	西村甫太郎
-------	------	-------	------	-------	-------



三重縣	大坂府	茨城縣	廣島縣	靜岡縣	愛知縣	岐阜縣	平塚縣
岩野誠一	笠原道夫	井上善吉	吉永福太郎	齋藤和策	佐久間泰治	早野龍三	

大坂府	山梨縣	愛知縣	大坂府	岐阜縣	和歌山縣	靜岡縣
好本節	原藤孝一	野村不回	竹內伊三	大橋代次	辻野保	蜂須賀誠二

兵庫縣	京都府	大坂府	香川縣	岡山縣
角田弘之	鹽見長衛	森小一	鶴見藤太	加藤尙義

二部工科

和歌山縣	和歌山縣	福島縣	福島縣	廣島縣	香川縣	廣島縣
望月政友	大河内又太郎	千葉誠一	今福新一	木村得多	瀬尾武次郎	

群馬縣	福岡縣	長野縣	鹿兒島縣	岡山縣	大坂府
金井四郎	中上友三郎	川村龍雄	高崎秀雄	清水稼太郎	小笠原顯

兵庫縣	福岡縣	福岡縣	福井縣	岐阜縣
板野幸一	大里與謝郎	春日主稅	關口親	

岡山縣	岡山縣	岡山縣	岡山縣	兵庫縣
大口章次	那須賴太郎	永瀬連太郎	石井格一	合田松次郎

岡山縣	岡山縣	岡山縣	廣島縣	愛媛縣
數田春魚	三宅幹次	遠藤三武郎	玉島光三	西松唯一

大坂府	岡山縣	岡山縣	岡山縣	兵庫縣
高田郁三	中村正義	清水惠助	安田靖一	西川清治











二部工科

平香川民縣	宮崎虎一	士廣島族縣	秋田久	士兵庫族縣	齋藤實理
士東京族府	田中實	士鳥取族縣	若林信明	平愛知民縣	兒玉定次
士東京族府	小室靜夫	平岡山民縣	大瀧照太郎	士福島族縣	林勝二
平岡山民縣	難波元弘	平靜岡民縣	柳下亮一	士岐阜族縣	川井勝一
士茨城族縣	鈴木二郎	士東京族府	小山三郎	士東京族府	玉村滋雄
士京都族府	柳本直人	士香川族縣	勝本永二郎		

二部理科

平岡山民縣	野田清一郎	士岡山族縣	池部季胤	平大坂民府	桑田義備

二部農科

平兵庫民縣	肥爪美貞	平岡山民縣	木村哲二	平岡山民縣	近藤萬太郎

二部藥學科

士愛媛族縣	竹内秀雄	士奈良族縣	藤田豐	華東京族府	米津政賢
平新潟民縣	樋口干五郎	平東京民府	山川洵		

三部醫學科

士廣島族縣	伊藤正雄	士岡山族縣	近藤見長	平大坂民府	池田誠一
平靜岡民縣	清野謙次	平岡山民縣	梶谷齊	士岡山族縣	太田一也
士岐阜族縣	安藤春雄	平千代民縣	河野建輔	平岡山民縣	原田彌久 <small>(元役三郎)</small>
平岡山民縣	春藤薰	平香川民縣	香川傳	平奈良民縣	石川芳治
平香川民縣	森彌三郎	士廣島族縣	内田一二	平岐阜民縣	野川彬
平香川民縣	野村巖	平東京民府	松山陸郎	平新潟民縣	渡邊八十次